

# 村東遺跡

—英賀保駅北第二公園雨水貯留施設建設に伴う発掘調査報告書—

2020

姫路市教育委員会

## 序

姫路市飾磨区山崎の英賀保駅北第二公園内において雨水貯留施設の建設事業が計画されました。雨水貯留施設は、ゲリラ豪雨等の非常時に地域の安全を確保する目的で建設されるもので、本地区において安心・安全に暮らすため欠くことのできない施設です。

計画地には、中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い発見された村東遺跡があります。本遺跡は夢前川の河口付近に位置する平安時代から鎌倉時代にかけての集落跡で、周辺は『播磨国風土記』の「英賀里」に比定されています。遺跡は現在の山崎集落と指呼の位置にあり、その前身集落にあたると考えられています。姫路市内においても数少ない平安時代の集落跡として、その実態の解明が期待されているところです。ここに調査成果を報告し、地域の調査・研究の進展に資する所存あります。

最後に事業実施にあたり、多大なご協力を賜りました姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合、姫路市下水道整備室、山崎自治会、その他関係者各位に心から御礼申し上げます。

令和2年(2020年)3月31日

姫路市教育委員会

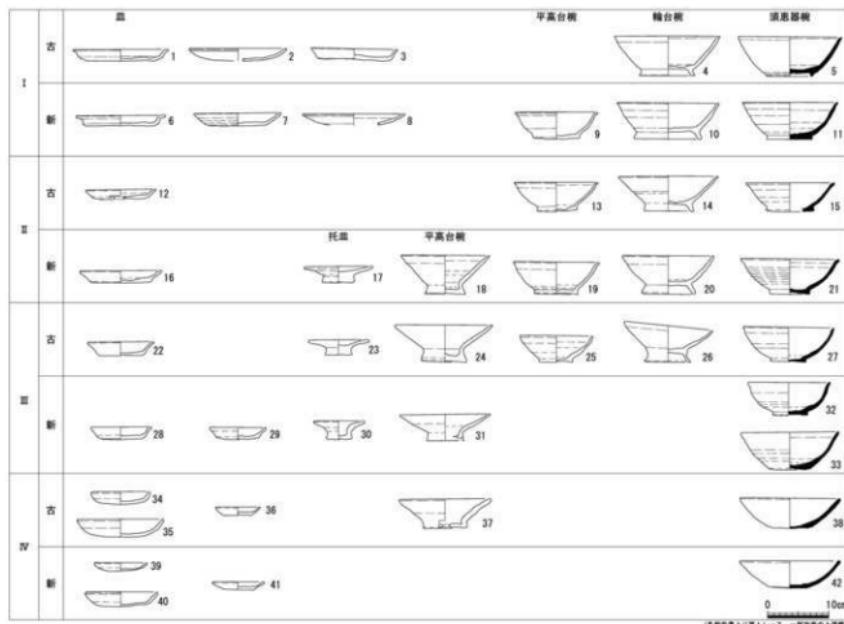
教育長 松田 克彦

## 例　　言

1. 本書は兵庫県姫路市飾磨区山崎で実施した村東遺跡第10次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は姫路市下水道整備室による雨水貯留施設の建設に先立って実施した。
3. 発掘調査は平成29年(2017年)7月14日から9月6日の期間に、出土品整理作業及び報告書の作成は平成30年度・令和元年度に実施した。
4. 発掘調査は姫路市下水道整備室の依頼を受け、姫路市教育委員会　生涯学習部　埋蔵文化財センターが実施した。
5. 発掘調査および出土品整理作業、発掘調査報告書作成・刊行に係る経費は姫路市下水道整備室が負担した。
6. 発掘調査に係る現地作業を有限会社松浦興業に、空中写真測量を株式会社オーシスマップに委託した。また、遺物実測作業の一部を株式会社文化財サービス、トレース・レイアウト作業の一部を株式会社イビソクに委託した。
7. 発掘調査報告書の執筆・編集は、姫路市埋蔵文化財センターが行った。
8. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。
9. 発掘調査・出土品整理および報告書作成においては、下記の方々・機関より御協力・御教示を賜った。深く感謝の意を表します。(敬称略、五十音順)  
神戸市教育委員会、神戸市埋蔵文化財センター、たつの市埋蔵文化財センター、兵庫県立考古博物館、山崎自治会、池田征弘、岸本道昭、中村大介

## 凡　例

1. 遺構名の表記は、文化庁文化財部記念物課監修の『発掘調査のてびき』記載の略号を使用した。ただし、略号については調査時の見解のままであるため本来の遺構の分類と異なっているものもある。また、遺構名には1番から番号を付したが、調査の進捗に合わせて採番したため順序等が整然としていない。報告書上では、遺構の性格が明らかな場合は溝、建物跡等の名称と適宜併用している。
2. 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位は全て座標北である。標高は東京湾平均海水準(T.P.)を使用した。
3. 土層注記に用いた色調は『新版 標準土色帳』(1999年度版)に準拠している。
4. 遺物実測図の掲載にあたって、須恵器は断面黒塗りとし、黒色土器は断面灰色とした。
5. 本報告における時期区分は姫路市埋蔵文化財調査報告第56集『村東遺跡』に示した区分による。実年代は暫定であるが、Ⅰ期を9世紀後半～10世紀前半、Ⅱ期を10世紀後半～11世紀前半、Ⅲ期を11世紀後半～12世紀前半、Ⅳ期を12世紀後半～13世紀前半に比定している。



1～5: 上池遺跡 SX02, 6・7・10-11: 円教寺裏跡堂第2層, 8: 同第4層, 9: 清ノ口遺跡 K地区 S2003K, 12～15: 上船遺跡 HTA地区 730129K,

16-18・19: 小犬丸遺跡第20調査区 瓦溜め7西, 17-20: 小犬丸遺跡第21調査区瓦溜め5, 21: 斎原寺ノ下道跡 SK236, 22・24～27: 大野遺跡 SK40, 23: 宝林寺北遺跡土坑42,

28-29・31～33: 宮船遺跡A ブロックIV地区 SK1, 30: 宝林寺北遺跡 B地区 S501, 34～38: 玉津田中遺跡 S685001, 39～42: 上船遺跡 HTA地区 720275E

図1 插磨における土器変遷図 (S=1/8)

## 本文目次

第Ⅰ章	調査に至る経緯と経過	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の体制	1
第3節	調査の経過	3
第Ⅱ章	遺跡の立地と歴史的環境	4
第1節	遺跡の立地と基本層序	4
第2節	歴史的環境	7
第Ⅲ章	調査の成果	10
第Ⅳ章	総括	33
一覧表	遺物観察表	39
	遺構一覧表	42

写真図版

## 第1章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

姫路市飾磨区山崎の英賀保駅北第二公園内において姫路市単独事業として雨水貯留施設の設置が計画された。周辺は中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い区画整理事業が進み、近年宅地化が急速に進んでいる。雨水貯留施設は、近年のゲリラ豪雨等の災害に対応するため設置されるもので、その規模は長辺28m、短辺8m、深さ3.5mを測り、貯留容量は700m<sup>3</sup>が計画されている。

事業計画地は、平成12年度から平成14年度にかけて区画整理事業に先行して実施した国庫補助事業による試掘調査によって発見された村東遺跡（旧称：英賀保駅周辺遺跡第1地点）に該当している。事業者である姫路市下水道整備室から平成29年2月22日付けで文化財保護法第94条に基づく通知があった。通知の内容に基づき工事によって遺跡に影響が及ぶ範囲の取扱いについて協議を行い、兵庫県教育委員会に進達した。兵庫県教育委員会から平成29年7月28日付けで記録保存の取扱いの旨、通知を受け、本発掘調査を行うことになった。公園用地の管理者である姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合及び山崎地区自治会との調整を経て、現地調査を開始した。

### 第2節 調査の体制

発掘調査及び整理作業は姫路市下水道整備室からの依頼に基づき、姫路市教育委員会が実施した。作業開始から整理作業の完了までの体制は以下のとおりである。

姫路市教育委員会 （平成29年度から令和元年度までに在籍した職員）

教育長 松田克彦（中杉隆夫）

教育次長 坂田基秀（名村哲哉）

生涯学習部

部長 沖塩宏明（岡田俊勝）

文化財課

課長 花幡和宏

課長補佐 大谷輝彦

埋蔵文化財センター

館長 前田光則

課長補佐 岡崎政俊

係長 森恒裕

再任用 竹井宏文、山下哲司

技術主任 小柴治子、福井優、中川猛、南憲和、関粹

技師 黒田祐介

技師補 山下大輝

嘱託員 韋美紗、黒岩紀子、清水聖子、田中章子、玉越綾子、野村知子、松田聰子、三輪悠代

臨時職員 寺本祐子、藤田由紀、長谷川鈴代

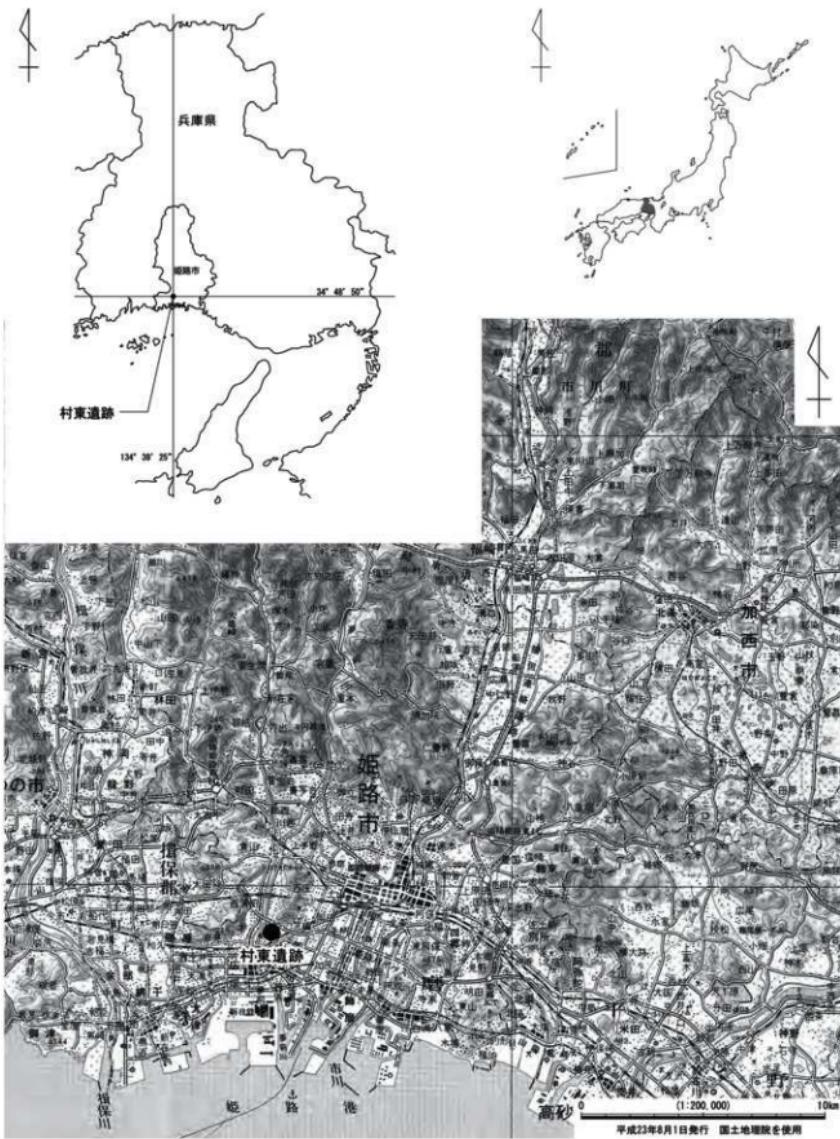


図2 遺跡の位置

### 第3節 調査の経過

調査は平成29年7月14日から開始した。村東遺跡ではこれまで図3に示すように区画整理道路部分について9次にわたり調査を行っている。今回の調査は第10次調査にある。調査面積は371m<sup>2</sup>である。

調査にあたってはバックホウで盛土・造成土・攪乱土を除去した。その後、遺構検出面まで人力で掘削し、遺構検出及び検出した遺構の発掘を行った。遺構発掘の進展に伴い適宜、記録写真撮影、遺構実測を行い、調査の終盤にあたる8月26日に地元向けの現地説明会を開催した。夏休み期間ということもあり、子供連れの方も目立ち、136人の参加があった。平成29年8月29日に空中写真測量を実施した。その後、断ち割り等の追加調査を行い平成29年9月6日に現地作業を完了した。

平成30年度から令和元年度にかけて整理作業を実施し、本報告書の刊行をもって、全ての作業を完了した。



### 写真1 現地説明会風景

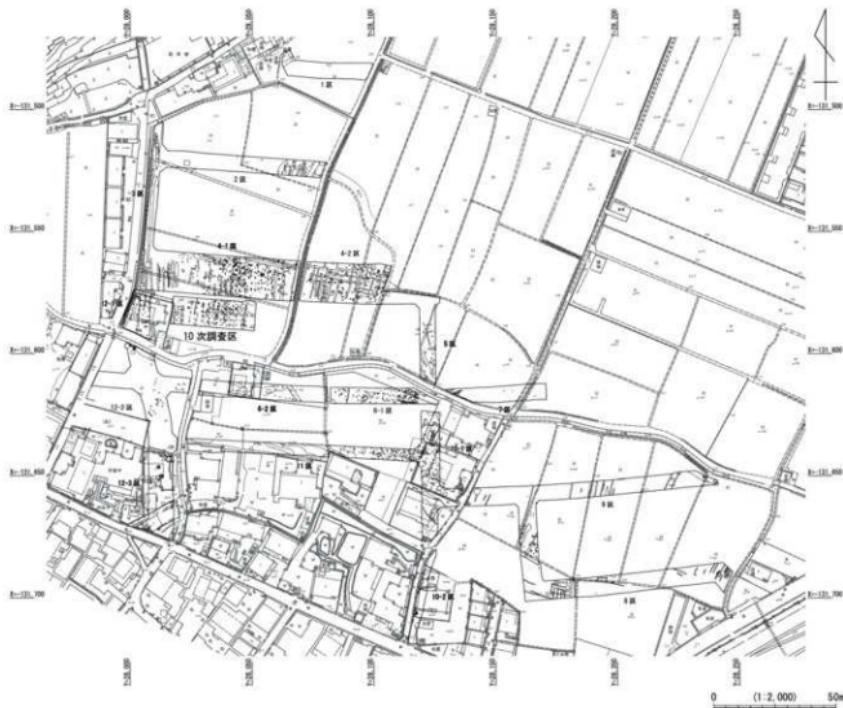


図3 調査区全体図

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

### 第1節 遺跡の立地と基本層序

遺跡は姫路平野の西部、夢前川の東岸に立地している。夢前川は姫路市夢前町に所在する標高915mの雪彦山を源流とする延長約39.7kmの二級河川である。現在の海岸線からは約3.2km、かつての海岸線と想定されている山陽電鉄沿線付近からは約16km内陸に位置する。遺跡の範囲は東西約300m、南北約250m、調査前の地表面の標高は3.8m～3.0mである。遺跡の所在する山崎地区は、その名が示すように山塊の先端に位置する。現在も村の北にある浄土真宗本願寺派西山廟所の西側に岩盤の露頭を確認することができる。その岩盤に近接して集落の中を市

道八幡74号線が北西から南東に通っている。図4に示すように遺跡周辺の等高線はこの市道の法線に沿って伸びていることから、村東遺跡及び現在の山崎集落は夢前川の形成した自然堤防上に立地していることがわかる。

調査区の層位については、図5に示した。遺構検出面までの基本的な層序は盛土、旧耕土(1層)、床土(2層)、褐灰色の遺物包含層(3層)を経て遺構検出面である黄褐色細砂(4層)もしくは砂礫層(5層)に至る。遺構検出面は現地表から約1.1m、標高3.4m～3.5mにある。土層断面の観察では遺構検出面より上層の包含層内に立ち上がりが認められる遺構があることから、本来の生活面は遺構検出面より上位である。断面調査を行った結果、遺構検出面の下位には、さらに砂と砂礫の互層(8～17層、厚さ30～45cm)が続いている。内部は固くしまっており、遺物の出土は認められない。その下位に砂層(18層、厚さ20～25cm)、シルト層(19層、厚さ約1m)が堆積している。湧水が激しかったため、これ以上の断面調査は行っていないが、検土棒による調査を行った結果、標高1.4m前後で礫層に到達し、その上部に有機質起源とみられる黒褐色シルト～粘土(20層、厚さ約15cm)が堆積していた。20層より下位については雨水貯留施設に伴うボーリングデータに基づけば、これらの粘土・シルトを主体とする沖積層は標高-1.2mまで確認でき、そこから標高-4.2mまで沖積礫質土層が確認できる。その下位は洪積礫質土層とみられる。遺構・遺物が確認できるのは、調査区において遺構検出面とした面のみで、遊離した状態での弥生土器の出土はわずかに認められるが、平安時代以前の遺構は存在せず、安定して生活の場となるのは平安時代を前後する時期頃かと予想される。

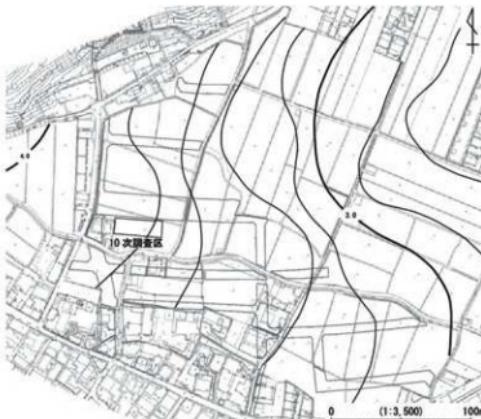
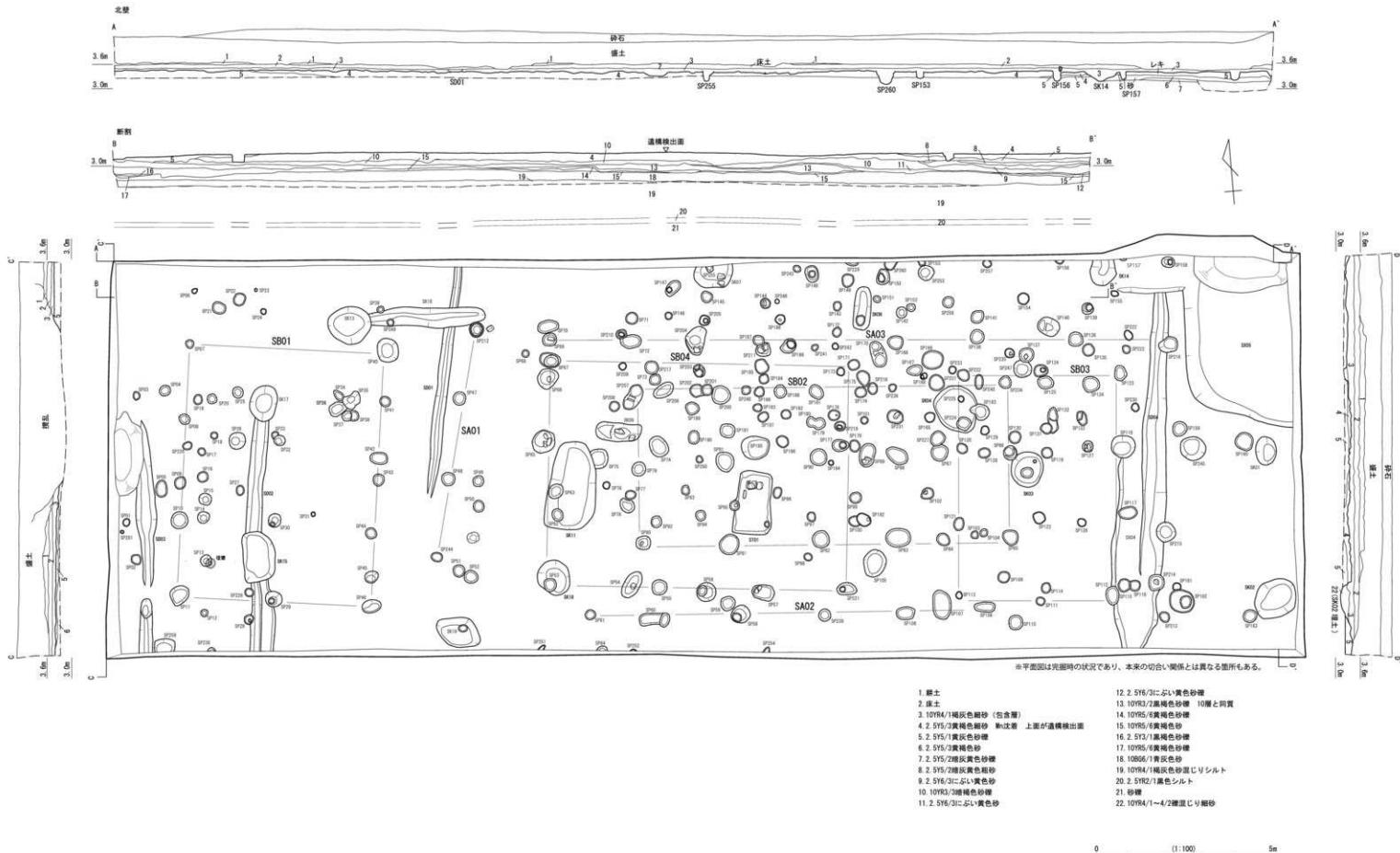


図4 村東遺跡調査前等高線図



## 第2節 歴史的環境

遺跡の所在する夢前川の流域には、西の比叡山とも称される書写山円教寺や播磨国守護赤松氏の居城である置塙城跡など、多くの文化財が残されている。また、実態は未だ明らかではないが、河口部には播磨における浄土真宗の広がりを語る上で欠くことのできない本徳寺を擁した英賀があった。このように夢前川は姫路あるいは播磨の歴史上重要な遺跡・史跡を育んできた河川といえる。

遺跡の所在する夢前川の河口部は、「播磨國風土記」に記載された「英賀里」に比定されている<sup>(1)</sup>。風土記の伝える「阿賀比古」「阿賀比売」の二神は現在、それぞれ英賀本町の英賀神社と広畠区才の天満神社に祀られている。遺跡の北西、夢前川と山崎山の山塊が最も近接する部分が「稚児ヶ淵」と呼ばれる。この付近で北の青山・蒲田から続く一連の平野が一旦途切れ、対岸の才村には旧河道の痕跡が良好に観察できる。山崎と才の集落を過ぎる付近から一気に河口平野が広がる。現在、住居表示に「英賀」と付く地名は夢前川東岸に限られているが、本来は河口部の平野一帯を指していたと思われる。「日本紀略」寛和二年(986)七月、花山法皇が書写山円教寺に性空上人を訪問した記載がある。江戸時代に書写された円教寺文書「悉地伝」には、その時、花山法皇が「英賀河尻」から船出したことが記されている<sup>(2)</sup>。

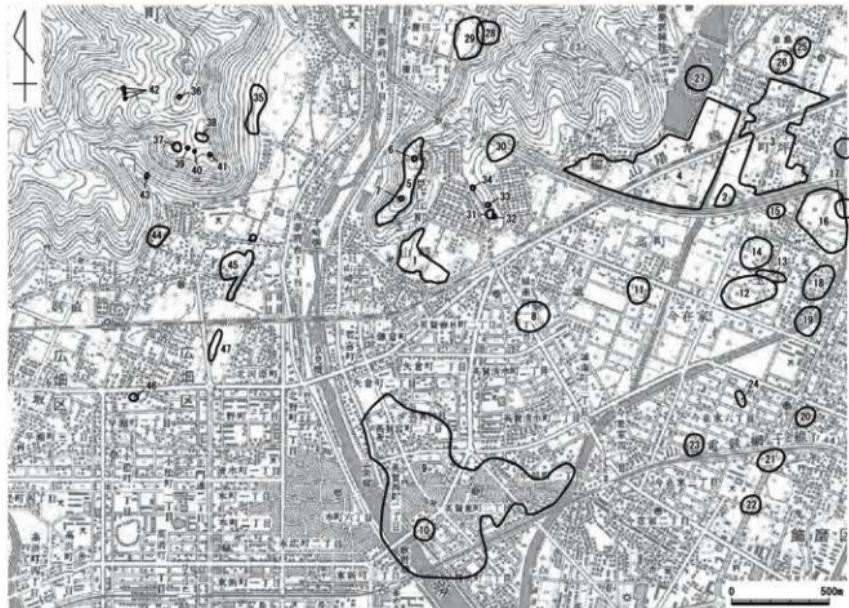
觀応三年(1352)九月の「法觀寺文書」に「八坂法觀寺料英賀敷在田」と記され、また、長享二年(1488)八月の「藤涼軒日録」に「又真満院領英賀東西之内細工所有之」と見えるが、この時期の具体的な英賀の様相は明らかになっていない。その後、文明から明応年間にかけて英賀に真宗道場が建設され、それ以降、播磨地域の浄土真宗の中心地となる。享禄二年(1529)の「鶴庄引付」によれば英賀津に赤松政村の守護館が置かれるなど、播磨における支配拠点の一つとなつた時期もあったようである<sup>(3)</sup>。

こうした「英賀里」には、多くの遺跡が残されている。旧石器時代の角錐状石器が町坪の豆田遺跡<sup>(3)</sup>から出土している。縄文時代後期前半の中津式土器、後期後半の元住吉山I式土器が鹿谷道遺跡<sup>(14)</sup>から見つかっている。縄文時代晚期後半に位置づけられる突帶文土器が出手遺跡<sup>(13)</sup>と池ノ下遺跡<sup>(4)</sup>から出土し、池ノ下遺跡においては弥生時代前期前半の資料が見つかっている。英賀城跡<sup>(9)</sup>と重なる歌野橋遺跡<sup>(10)</sup>においても弥生土器が採取されているようで、村東遺跡の南にある砂堆上の遺跡形成時期を示唆している。弥生時代中期以降になると調査地周辺のみでなく市内全域に遺跡数が増加していく。そうした集落維持に欠かせない祭祀具である銅鐸片が東川遺跡<sup>(18)</sup>から出土している。四ツ池遺跡<sup>(27)</sup>からは時期は不明であるものの鳥形木製品が採取されている<sup>(4)</sup>。近年調査が行われた広畠区の才村遺跡<sup>(45)</sup>においては、弥生時代後期から古墳時代初頭の溝が確認されている<sup>(5)</sup>。

古墳時代になると池ノ下遺跡から前期の小型丸底土器や中期の土師器が出土している。当該時期の古墳としては、夢前川右岸の京見山の尾根上に築かれた京見山才5号墳(才小屋ヶ谷古墳)<sup>(36)</sup>が知られている。約38mの前方後方墳で、後方部は一辺約20mを測る。発掘調査を行っていないため詳細な時期は不明であるが、埋葬施設は竪穴系石室と目され古墳時代前半に位置づけられている<sup>(6)</sup>。対岸の苦編地区の山塊からは2面の鏡の出土が伝えられている。一例は現在ギメ国立博物館所蔵品となっている変形四神四獸鏡、もう一例は現品の所在は不明であるが内行花文鏡である<sup>(7)</sup>。こうした出土例から周辺の山塊上には現在周知されている以上の古墳が存在している可能性が高い。古墳時代後期の古墳は苦編山から派

生する丘陵の山麓に付城山古墳群(30・32~34)・蒲田古墳群等がある。対岸の京見山には、尾根筋に通称「四ツ塚」として知られる京見山才1~4号墳(42)、東山麓には下野古墳群(35)がある。このうち京見山才1・2号墳については近年の調査により6世紀中葉の墳長約23mの前方後円墳(才北山古墳)である可能性が指摘された<sup>(9)</sup>。下野古墳群については、当初1~6号墳が知られるだけであったが、近年の分布調査等によつて現在では約20基の古墳が知られるようになっている<sup>(9)</sup>。周辺の密集する古墳群を形成した集団の生活域については、これまで全く不明であったが、近年調査が実施された才村遺跡と最近存在が明らかになつた郷着遺跡(47)において古墳時代前期から中期の溝や竪穴住居が確認されている<sup>(10)</sup>。

奈良時代から平安時代にかけては唐三彩が出土した池ノ下遺跡、類例の少ない唐草文を施した瓦塼が出土した山所遺跡・山所廃寺(28・29)、奈良時代の井戸が見つかった家中遺跡(46)がある。郷着遺跡(47)でも8世紀後半から9世紀の建物跡と井戸が確認されている。さらに池ノ下遺跡においても建物跡が検出されるなど、当該時期を知る手がかりが増えつつある。また、場所は不明ながら「大字英賀保小字崖山」において隆平永宝16枚を含む銭39枚が採集されたと伝わっている<sup>(11)</sup>。遺跡の東側には村東遺跡から延び



1. 村東遺跡
2. 大浄口遺跡
3. 亞田遺跡
4. 池ノ下遺跡
5. 山崎城跡
6. 稲堀ヶ瀬1号墳
7. 稲堀ヶ瀬2号墳
8. 立堤内遺跡
9. 英賀城跡
10. 歌野桃遺跡
11. 城田行模跡
12. 横枝遺跡
13. 出手遺跡
14. 鹿谷遺跡
15. 台堂遺跡
16. 大石橋遺跡
17. 中ノ町遺跡
18. 東川遺跡
19. 石田遺跡
20. タナノ瀬跡
21. 石や田遺跡
22. 加茂遺跡
23. 梅木遺跡
24. 平塚遺跡
25. 村前遺跡
26. 法輪寺山遺跡
27. 四ツ池遺跡
28. 山所遺跡
29. 山所廃寺
30. 付城山群集墳4~8号墳
31. 付城山遺跡
32. 付城山群集墳1号墳
33. 付城山群集墳2号墳
34. 付城山群集墳3号墳
35. 下野古墳1~6号墳
36. 京見山才5号墳
37. 京見山才山頂第1列石群
38. 京見山才山頂第2列石群
39. 京見山才山頂第1号墳
40. 京見山才山頂第2号墳
41. 京見山才山頂第3号墳
42. 京見山才1~4号墳
43. 才村古墳
44. 才村遺跡
45. 家中遺跡
46. 家中遺跡
47. 郷着遺跡

図6 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

る微高地の延長上に位置すると見られる辻垣内遺跡(8)が存在する。本遺跡の出土資料は、村東遺跡の初期のものと同時期で、立地を含め有機的な関連がうかがえる。前述した「英賀河尻」の具体的な所在を知ることはできないが、この時期の遺跡である村東遺跡や辻垣内遺跡等の集落が、当該時期には総体として「英賀」と呼ばれていた可能性は高い<sup>(12)</sup>。

現在知られている遺跡は山麓から平野部を中心に展開し、江戸時代にはこれらの山際を通り姫路から室津に至る室津道が整備され、山崎集落の西端には江戸時代の常夜灯が残されている。中世後半に栄えたとされる英賀城跡(9)についてもかつて字「御坊」において堺や炭化米が出土したと伝わるが、その実態は考古学的には不明のままである。近年、歌野橋付近の字「西刈谷」と字「東刈谷」において小規模な調査が行われ、16世紀前半頃を中心とする遺物が出土している。遺跡内においては各種の工事に伴い立会や試掘・確認調査を行っているが、遺構と遺物が確認できるのは、上記の3つの小字の範囲であり、当該期の集落域はこれまでの想定よりも小規模である可能性が指摘できる<sup>(13)</sup>。ただ、文献上では英賀は東と西に分かれていることが明らかである。『姫路市史』をはじめ各種の郷土誌などでは夢前川東岸をかつての英賀と認識しているように見受けられるが、歴史上の英賀は夢前川の東岸と西岸に広がる、より広い範囲に展開している可能性も視野に入れ、今後の調査や研究が行われる必要があるようと思われる。

また、山崎集落の北方には、龜山本徳寺の墓地である西山廟所があり、山崎地区と英賀あるいは本徳寺との深いつながりを示唆している。山頂にはかつて山崎城跡があったと伝わるが、現状では、それらしき遺構は確認できない。近年、地元の人により墓地の裏側から矢穴痕を残す石材が発見されており、未だ知られていない先人の足跡が眠っていることが予想される。

#### 註

- (1) 秋本吉郎校注 1958『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店
- (2) 姫路市史 2005『姫路市史』第8巻 史料編 古代中世1
- (3) 註2に同じ
- (4) 姫路市教育委員会 1998『TSUBOHORI－平成8年度姫路市埋蔵文化財調査略報』
- (5) 兵庫県まちづくり技術センター 2019『才村遺跡発掘調査説明会資料』
- (6) 姫路市史編集専門委員会編 2010『姫路市史』第7巻下 資料編 考古
- (7) 註6に同じ
- (8) 註6に同じ
- (9) 姫路市埋蔵文化財センター 2016『姫路の横穴式石室をたずねて』
- (00) 兵庫県まちづくり技術センター 2018『那着遺跡現地説明会資料』
- (11) 下間虎遷1918「発掘録の報告」「古鏡」第二卷第六号
- (12) 矢内澄1959「姫路市飾磨区英賀字辻垣内遺跡」「姫路古代誌』No5 姫路古代文化研究会  
姫路市埋蔵文化財センター 2018『村東遺跡』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第56集
- (13) 姫路市埋蔵文化財センター 2019『TSUBOHORI－姫路市埋蔵文化財センター調査年報－』

## 第Ⅲ章 調査の成果

検出した遺構は、掘立柱建物跡4棟、柵3条、土坑15基、ピット261基である。出土遺物の総量は4,097点で重量は約38kgである。これまでの調査に比べ面積当たりの遺物出土量は多いが、小片のため磁器比定の困難な遺構が多数を占める。各遺構については卷末の一覧にまとめ、本章では主要な遺構について記述する。

### 建物跡

**SB01** 調査区西側で検出した。平面プランはSK15・SD02と切り合う。SP29とSD02との直接的な切合からSB01がSD02に先行する。建物跡は調査区外の西方あるいは南方へ広がる可能性を有する。検出規模で2間×3間の縦柱建物跡と想定するが、北端の柱通りで柱穴を確認できない箇所があった。SP07-SP11を基準とした棟方向はN9° Eである。平面規模は梁行2間5.5m、桁行3間7.4mで、面積は40.7m<sup>2</sup>である。柱間寸法は東側のSP40-SP46で北側から3.0m、2.3m、2.1mを測る。南側のSP11-SP46では西側から2.6m、2.9mである。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径25~50cmを測る。深さは遺構検出面から20~32cmである。

本建物に伴うものではないが、SP11の北東に位置するSP13の底で埋甕を検出した。土師器壺5内には土師器杯4が逆位で入っていた。埋甕はSP13に伴うものではなく、別の掘方を有している。ただ、検出時点では平面プランは全く確認できなかった。断面観察でもSP13と埋甕の検出面は異なっており、両者の間には時期的な断絶があることがわかる。このため、調査の終盤に下層の遺構面の存在を確認するため、調査区を横断する断割りを行うとともに、平面的にも掘り下げを行った。図5の断面図にみるとおり、遺構検出面の下位には明確な遺構面は存在しない。また、断割り時に遺物の出土も確認できなかったことから、別の遺構面が広範囲にわたって存在するのではなく、部分的に時期の異なる遺構が残存しているものと判断した。

遺物はSP29の掘方から須恵器碗1が出土した。底部糸切りで平高台の痕跡を残す。内面底部に段をもたないことから綠ヶ丘窯址群の碗C1にあたる。SP33の掘方からは、底部ヘラ切りの土師器皿2と須恵器鉢3が出土した。2の口径は9.9cmを測る。3は綠ヶ丘窯址群で鉢Aとされている器種である。

土師器壺5は長胴甕で、口縁部が上方へ摘みあげられ、断面形状は三角形を呈す。胴部はやや下影れの形状となるが、口縁部を最大径とする。土師器杯4はヘラ切りの可能性を有するが、底部は切離し後にナデで丁寧に調整されている。外面には粘土接合痕が認められ、粘土紐巻き上げにより製作されている。類似する資料としては円教寺薬師堂下層から出土した資料が挙げられ、同時期のI期新段階に位置づけられる。

当該期の土師器甕についての変遷を予察的に述べると、I期古段階の神戸市上池遺跡SX04出土の甕は、外面はタテハケにより仕上げられ、口縁は胴部から屈曲し上方へ延び、端部は上方へ強く立ち上がる。I期新段階の資料は、SX04の甕に比べて立ち上がりがやや弱まつたものと評価できる。たつの市宮脇遺跡SX01の資料も当該時期と考えられる。神戸市北別府遺跡の埋甕も当該時期の特徴を持つが、この資料

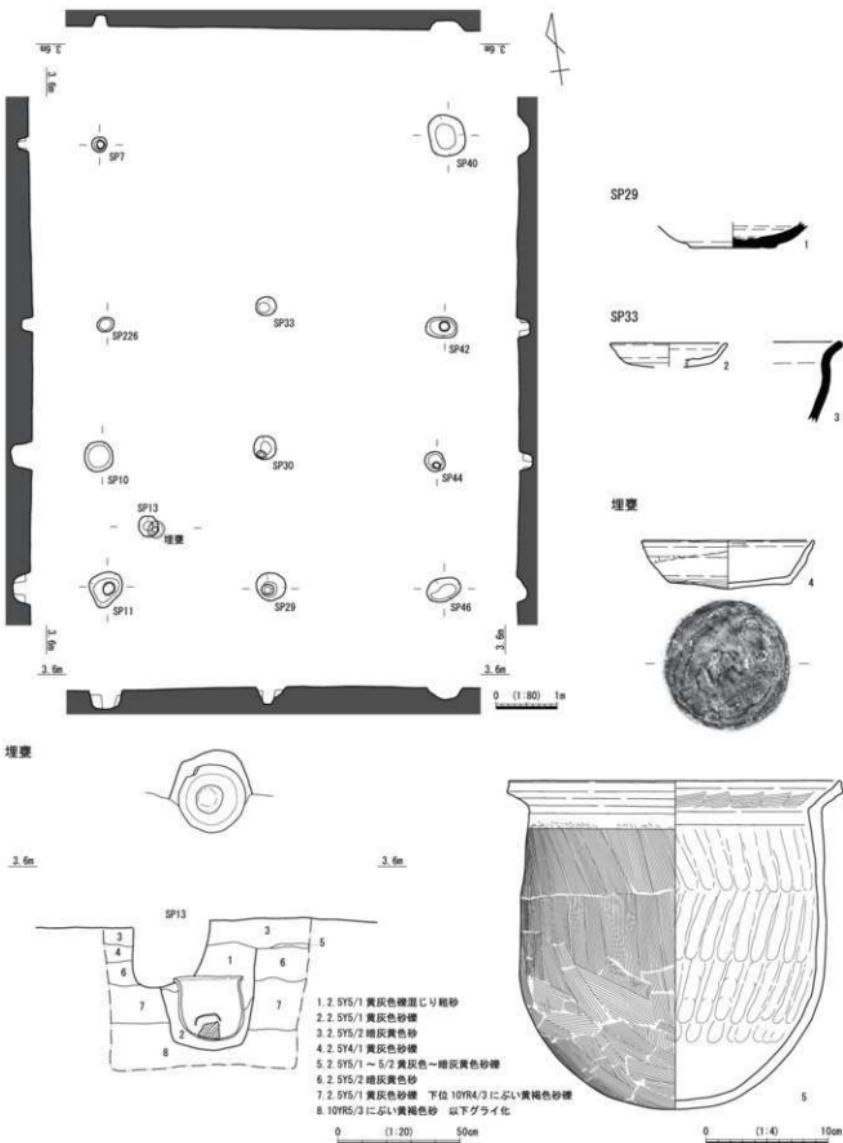


図7 SB01・埋甕 平面・断面図、出土遺物実測図

は外面にタタキによる成形痕を残す。東播磨地域でこの時期以後に認められる外面タタキ成形の長胴型甕の祖形と見られる。東播磨では、二期新段階の宿原寺ノ下遺跡においては口縁端部を上方へ折るタイプのものが出土している。口縁部は薄くなり、端部を上方へ向ける意識のみが残存している。三期古段階に該当する大野遺跡南地区SX40の資料では、口縁端部がやや拡張するも上方への志向は認められない。三期新段階の玉津田中遺跡8次SD101では、口縁部が拡張することもなく、外方への広がりも浅くなっている。なお、本遺跡と同時期に位置づけられる宮脇遺跡と北別府遺跡の資料は、いずれも藏骨器と考えられている。特に宮脇遺跡においては周囲を掘り込み区画した施設を伴うことから、墓と想定されている。村東遺跡で検出した埋甕も同様の想定が可能かもしれない。ただ、北別府遺跡の資料は完形であるが、宮脇遺跡のそれは底部を欠いているなど遺物の様相に違いが認められる。

**SB02** 調査区の中央部で検出した。平面プランはSB03とSB04と切り合うが、柱穴の直接的な切合はない。SA01とSA02に平行し、ST01が平面的に重なる。検出規模では2間×5間の総柱建物跡となる。SP85～SP234を基準とした建物の主軸はN4° Eを測る。平面規模は4.5m×10.6mで、面積は47.7m<sup>2</sup>である。柱間寸法はSP85～SP234の梁行で北から2.0m、2.3mを測り、南側桁行きのSP80～SP85で西から2.5m、2.6m、2.2m、1.3m、2.0mとなる。4間目にあたる柱間隔は1.3mと狭く、本来は別棟である可能性も残る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、直径は24～55cm、深さは遺構検出面から20～55cmを測る。

柱穴からは多くの遺物が出土した。SP80からは底部ヘラ切りの土師器杯6が、SP81からは底部ヘラ切りの土師器碗7、底部ヘラ切りの須恵器杯8、須恵器甕9～11が出土した。土師器碗7は内面に煤の付着が認められる。SP82からは須恵器甕12、短頸の土師器羽釜13が、SP87からは須恵器碗14が出土した。SP88からは須恵器碗15と鉄製品16が出土した。16は両端が尖り、断面形は薄いレンズ状を呈す。中央付近に段が認められるが詳細は不明である。SP91からは底部ヘラ切りの土師器碗17、須恵器碗18・19が出土した。18は内外面に火襷が認められる。19は底部糸切りである。SP207からは底部ヘラ切りの土師器皿20、球胴形を呈すと見られる土師器甕21、短頸の土師器羽釜22が出土した。

短頸の土師器羽釜13と22は製作技法に違いが認められ、時期差をもつと考えられる。予察的にその変遷を示すと22の方が古相を示し、13が新しい様相を示すと考える。22は口縁部と頸部分が明確に分離している。かつ、口縁端部は内面にわずかに拡張し、上端面もナデによりわずかに凹む。頸部も端部を上下にわずかに拡張させる。これに対して13は口縁端部に頸の貼り付け粘土が及び、口縁部と頸部の区別は曖昧で一体となっている。22のタイプを仮に短頸のAタイプ、13のタイプを短頸のBタイプと呼称する。短頸の羽釜は管見の限り、西播磨・東播磨ともⅠ期古段階には認められない。Ⅰ期新段階の加古川市溝之口遺跡K地区SD003K等でAタイプが出土する。口縁部と頸部の接続は徐々に曖昧になり、端部の拡張も認められなくなる。Ⅱ期新段階に位置づけられる宿原寺ノ下遺跡SK236等でBタイプの出土が確認できる。一定量が出土するのはⅢ期古段階までで、それ以降はほとんど見られなくなる。Ⅳ期には確実になくなっている。Ⅳ期にはいわゆる羽釜が出現するが、これとは直接の系譜関係ないと見られ、短頸の羽釜は平安時代中期から後期に限定される器種と言える。以上から短頸羽釜13及びヘラ切りの土師器碗と皿の存在から建物の時期はⅡ期新段階に位置づけられる。

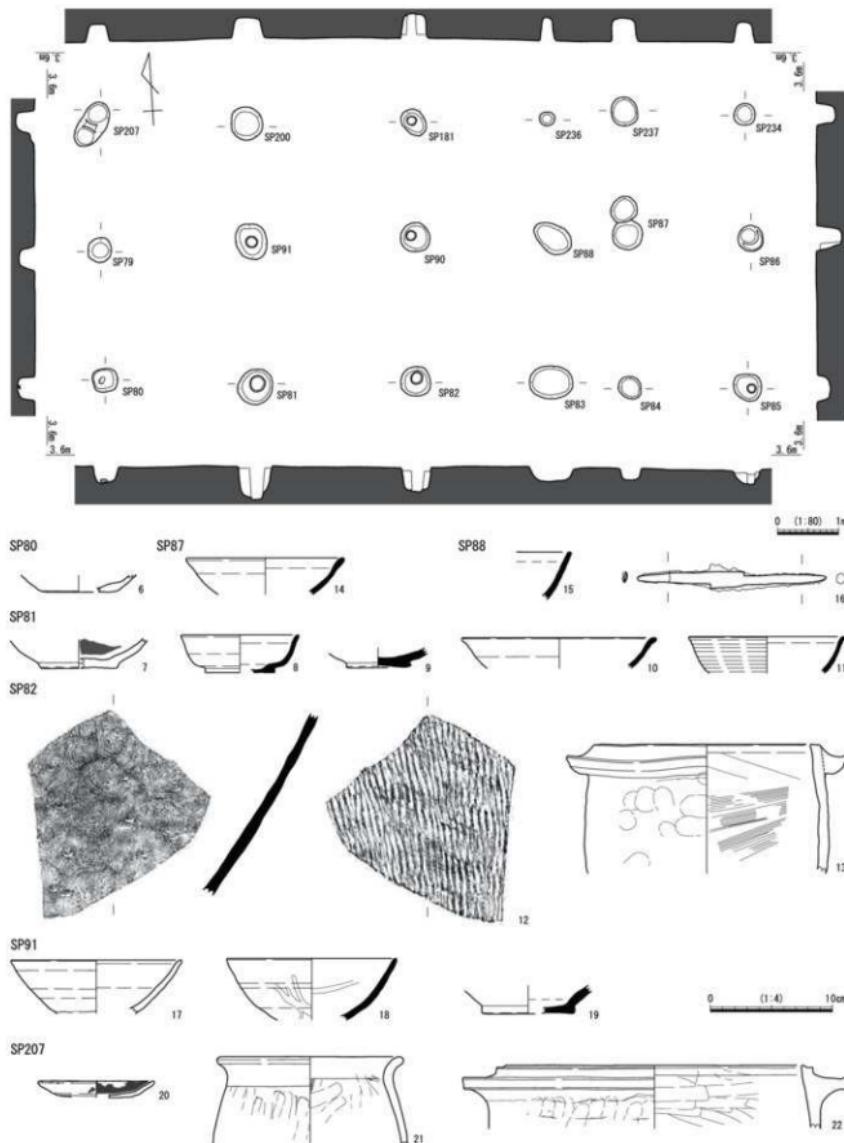


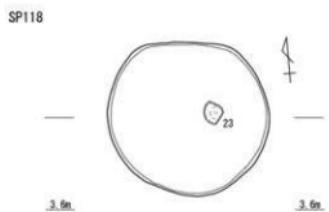
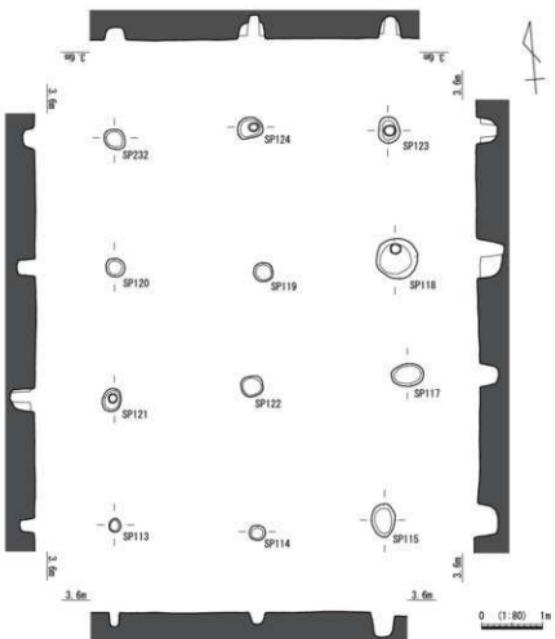
図8 SB02 平面・立面図、出土遺物実測図

**SB03** 調査区東側で検出した。平面プランはSB02と切り合うが、柱穴の直接の切合はない。SX04を掘り下げる過程でSP115とSP117が検出できることから、SB03はSX04に先行する遺構である。検出規模で2間×3間の縦柱建物跡と想定するが、検出場所から調査区外の南方へ広がる可能性を有する。SP113-SP232を基準とした棟方向はN6°Eである。平面規模は梁行2間4.5m、桁行3間6.4mで、平面積は28.8m<sup>2</sup>である。柱間寸法は西側のSP113-SP232で南側から2.1m、2.2m、2.1mである。北側のSP123-SP232でも西から2.3m、2.2mと柱はほぼ等間隔に配されている。東側桁行の柱通りは悪く、SP117は大きくズレている。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径20~65cmを測る。深さは遺構検出面から18~45cmを測る。

遺物はSP118から底部ヘラ切りの土師器皿23と須恵器椀24が出土した。23は図9に示すように、柱穴を一段下げる際に上層からやや斜めになった状態で出土した。SP124からは須恵器椀25が出土している。23の口径は約10cmを測り、SB01の土師器皿2と同様の口径、器形であることから、明確な時期は比定することは困難であるが、SB01と近い時期を与えることができる。

**SB04** 調査区のはば中央で検出した。平面プランはSB02と切り合い、ST01-SK11と重なるが、直接の切り合関係がないため、その新旧は不明である。検出規模で2間×3間の縦柱建物跡となるが、検出場所から調査区外の南方へ広がる可能性を有する。SP53-SP67を基準とした棟方向はN6°Eである。平面規模は梁行2間6.5m、桁行3間8.7mで、平面積は56.55m<sup>2</sup>である。柱間寸法は西側のSP53-SP67で南側から4.2m、2.3mとなり、南側の柱間隔は不自然に広い。北側のSP67-SP171では西から2.9m、3.1m、2.7mを測る。柱穴の平面形は概ね円形を呈し、大きさは直径30~80cmを測る。深さは遺構検出面から10~44cmを測る。柱穴のうちSP53がSK18を切っている以外は、切り合のある柱穴は存在しない。SK18は概ね円形を呈し、長辺96cm、短辺92cm、遺構検出面からの深さ38cmを測る。東側は比較的急角度で掘り込まれ、西側は緩やかに掘り込まれている。遺物は土坑の中央付近からまとまった状態で出土した。出土状況から土坑の廃絶に伴い廃棄されたものと見られる。

SB04に伴う遺物としては、SP195の掘方から須恵器椀26・27が出土した。いずれも底部糸切りである。27は体部に沈線を持ち、内面見込みに段を有する。森田編年では第Ⅰ期第1段階に位置づけられる。建物を構成するSP53が切るSK18からは比較的まとまった遺物が出土した。底部糸切りの土師器皿29、底部ヘラ切りの土師器皿28・30、土師器平高台椀31・32が出土し、32は底部糸切りである。土師器輪高台椀33、土師器椀34、底部ヘラ切りの須恵器杯35、土師器甕36が出土した。土師器糸切り皿の出現と底部糸切りの平高台椀の出土からⅢ期古段階に位置づけられる。SP195出土の須恵器椀27の年代観である第Ⅰ期第1段階とも矛盾なく、SB04はSK18と近接した時期に位置づけることができる。



24

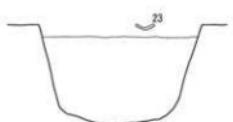


图9 SB03·SP118 平面·立面图、出土遗物实测图

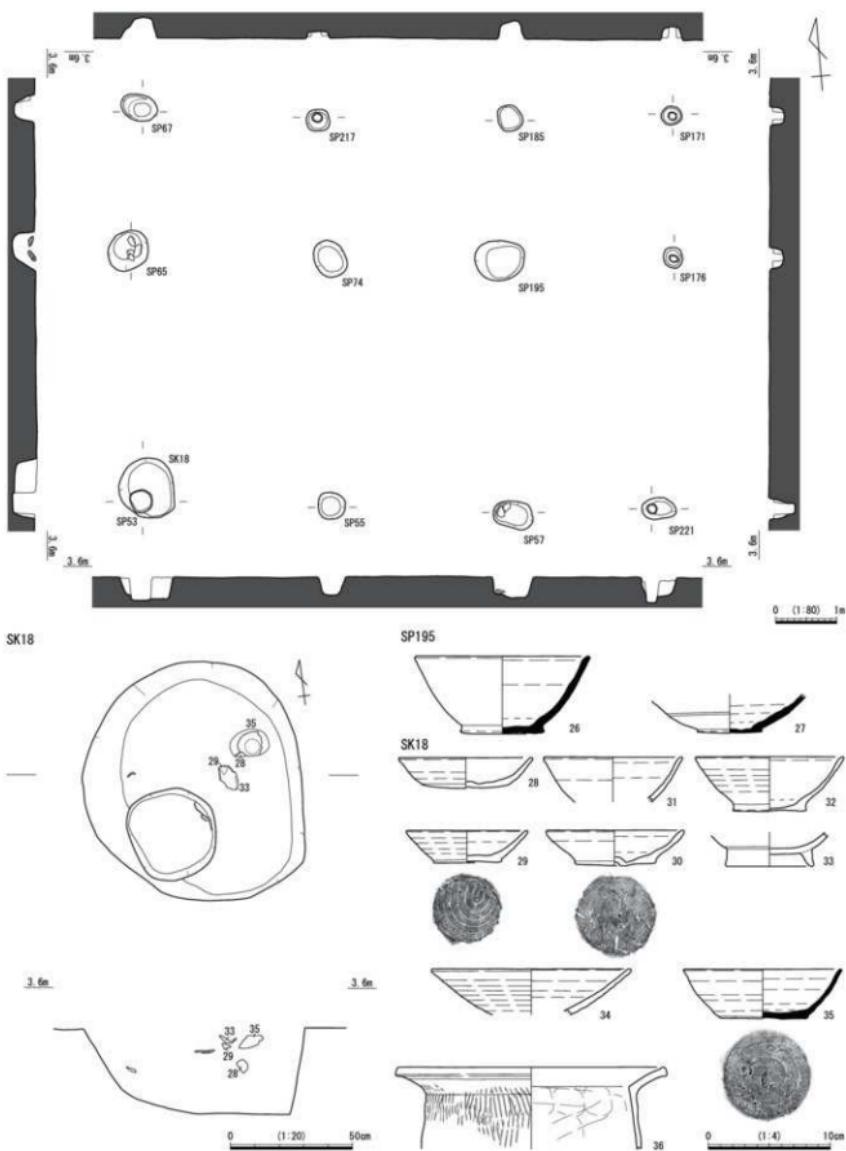


図10 SB04・SK18 平面・立面図、出土物実測図

柵

**SA01** 調査区の西部、SB01の東側で検出した。南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。対になる遺構が確認できないことから柵と判断した。検出位置から調査区外の北方へ延びる可能性があるが、1次調査4区では確認できていない。遺構の主軸はN13°Eで、西側にあるSD01とほぼ平行する。他の柵や建物跡とは方位が揃わない。

規模は延長6.6m、柱間隔は北から2.0m、2.35m、2.25mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は30~45cm、深さは遺構検出面から20~35cmを測る。図化に耐えうる遺物の出土した柱穴はなかった。

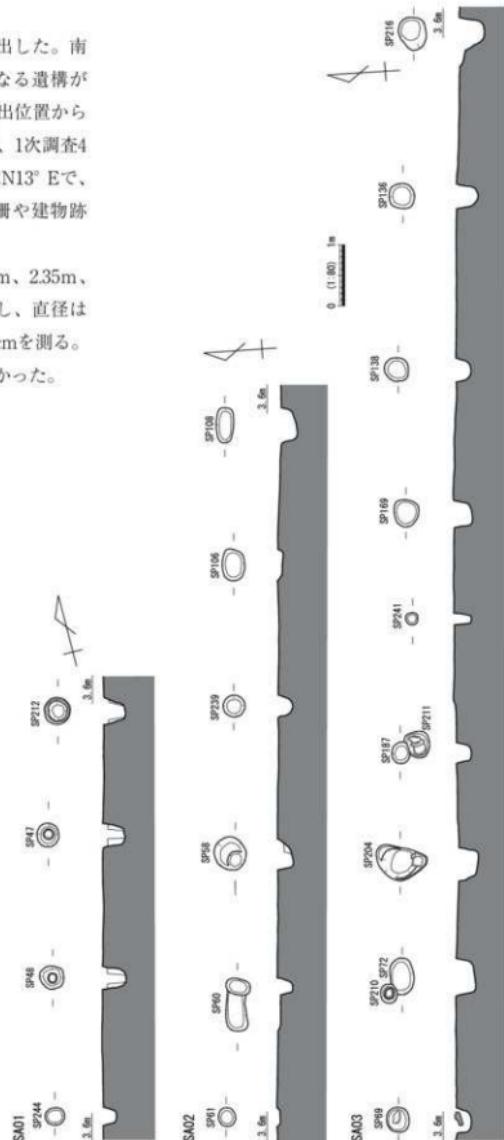
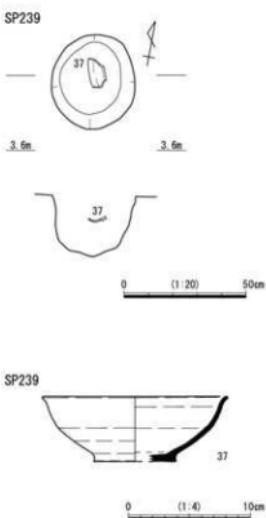


図11 SA01・SA02・SA03・SP239 平面・断面図、出土遺物実測図

**SA02** 調査区の南側、SB02・SB03・SB04の南で検出した。東西方向に6基の柱穴が一列に並ぶ。調査区外に対になる柱列が存在する可能性は否定できないが、調査範囲では確認できることからここでは柵として記載する。規模は延長11.3m、柱間隔は西から2.1m、2.1m、2.5m、2.3m、2.3mを測る。遺構の主軸はN5° Eに直交する。柱穴の平面形は円形と長円形を呈す。直径は30~55cm、深さは遺構検出面から6~25cmを測る。

遺物はSP239から須恵器碗37が出土した。柱穴の中位から横位の状態で出土した。全体の約1/3の残存であったが、埋土中からは他の破片は出土していない。底部は糸切りで、体部がわずかに湾曲し、口縁は外反する。主軸方向からはSB02・SB03・SB04のいずれとも関連する可能性を有するが、位置的にSB02に伴う可能性が高いと考える。

**SA03** 調査区の北部に位置し、SB02、SB03、SB04の北側で検出した。東西方向に9基の柱穴が概ね直線に並ぶ。調査区北側に対になる遺構が存在する可能性はあるが、1次調査4-1区では対になる遺構は確認できていないことから柵と判断した。平面プランは他の主要遺構とは切合い関係になく、一部の柱穴が他の柱穴と切合うほかは有意な切合い関係は見いだせない。柱穴の切り合い関係からSD04に先行する遺構である。規模は延長17.8m、柱間隔は西から2.4m、1.8m、1.8m、2.2m、1.8m、2.3m、2.8m、2.7mを測る。遺構の主軸はN5° Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は20~55cm、深さは遺構検出面から25~40cmを測る。遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の主軸からSB02もしくはSB04とセットになる可能性が高い。

図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

## 溝

**SD01** SB01の東側1.5mの位置で検出した。SK16を切る。溝の主軸はN12° Eである。検出規模は延長7.0m、幅は最大30cmを測る。溝は調査区外の北方に延びている。断面形は浅い皿状を呈し、遺構検出面から底面までは約5cmを測る。溝の埋土は耕土に近い黄灰色を呈し、切合い関係を含め柱穴よりも新しい時期の遺構と考えられる。

図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

**SD02** 調査区西部で検出した。SB01を構成するSP29とSK15を切っている。溝の北端でSK17を検出したが、両者の関係は不明である。主軸はN5° Eである。検出規模では延長6.6m、幅は最大で70cmを測る。溝は調査区外の南方に延びている。断面形は浅い皿状を呈し、遺構検出面から底面までは約5cmを測る。

図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

**SD03** 調査区西側、SB01の西側約40cmの位置で検出した。溝の主軸はN5° EとSD02と概ね平行している。検出規模は延長6.7m、幅は最大51cmを測る。溝は調査区外の南方へ延びる。断面形は皿状を呈し、SD01・SD02に比べるとやや深く、遺構検出面から底面までは10cmを測る。他の溝と同様、図示に耐えうる遺物の出土はない。

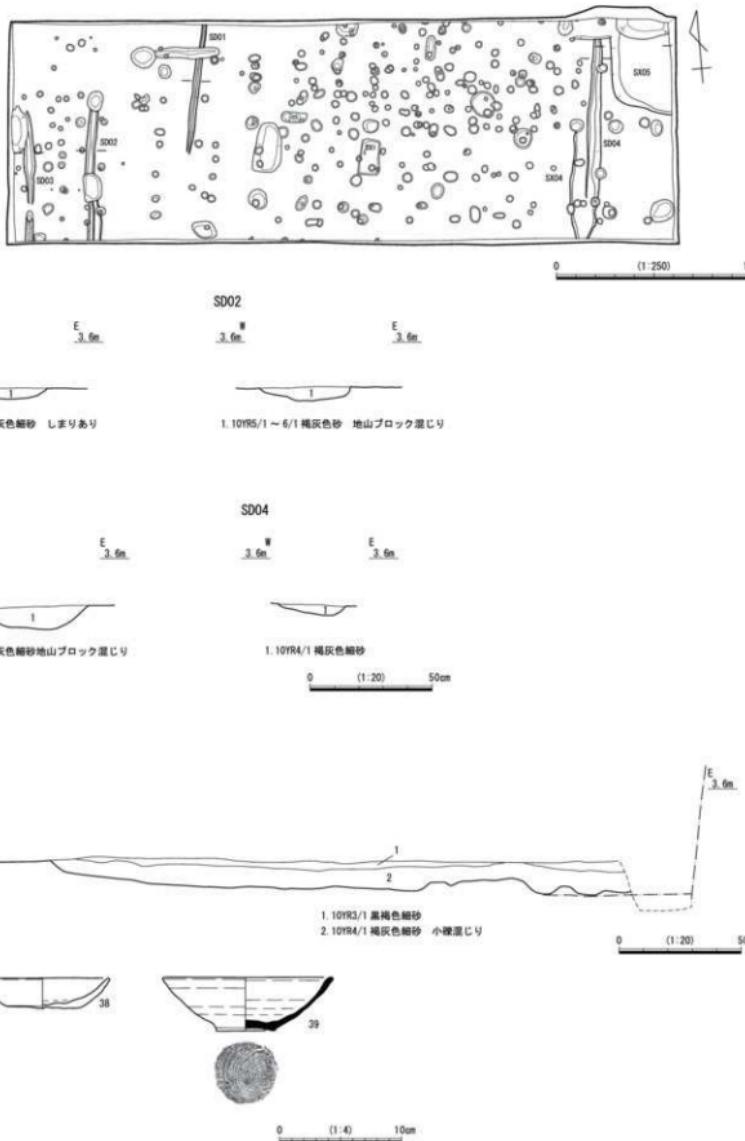


図12 SD01・SD02・SD03・SD04・SX05断面図、SX04出土遺物実測図

**SX04** 調査区東側で検出した。当初はSX04と認識していたが、SX04の掘り下げに伴い溝状のプランを確認した。SA03を構成するSP216を切っている。溝の主軸はN7° Eである。検出規模は延長11.4m、幅は最大96cmを測る。検出部の北端は擾乱を受けているが、調査区を超えて北方と南方へ延びるものと想定する。断面形は浅い皿状を呈し、造構検出面から底面まで最大で5cmを測る。溝の南側は徐々に浅くなつており、それにつれ西側の掘方は不明瞭になっていく。図化に耐えうる遺物の出土はない。

**SX04** 調査区の東側で検出した。黒褐色土が南北方向に帯状に広がる。検出時点ではSD04の上面に重なる範囲に広がっていたが、掘り下げに伴いSD04は分離して検出できしたことから別の造構とした。埋土は基本的に図5に示した調査区土層断面の3層(包含層)と同様であり、地形の凹みに堆積したものと考えられる。検出規模で南北約10m、東西1.5～3.0mを測る。遺物は細片が多いが、図化に耐えうるものとして土師器杯38と須恵器椀39を掲載した。

**SX05** 調査区の北東端で検出した。検出時にはSX04の北側と一部重なつていたが、西側から東側にかけて徐々に深くなることから別の造構と認識した。現状で長辺4.7m、短辺3.0m、深さは造構検出面から13cmを測る。埋土は2層に分層でき、下層は壁面3層にあたる包含層と同質で、区別はできない。図示に耐えうる遺物の出土はなかった。

## 墓

**ST01** SB02およびSB04と重なる位置で検出したが、建物を構成する柱穴とは直接の切合い関係はなく、その新旧は不明である。SP95を切る。検出時には石材の一部が露出しており、それを囲うように南北方向に長い隅丸長方形のプランが確認できた。平面規模は長辺1.78m、短辺0.94m、深さは造構検出面から最大で29cmを測る。造構の主軸はN7° Eである。北側と西側で検出した石材は内側に面を持ち、北側の石材は最大で2段積んでいる。埋土中には本来積まれていたとみられる石材が転落していた。石材は長辺約40cm、短辺約30cm、厚さ15cm程度の割石もしくは河原石を用いている。また、この石組み周辺から完形に近い黒色土器椀、土師器杯等が出土した。石組みを伴う土坑の類例としては村東遺跡4-2区ST01、6区ST01、11区ST01、宝林寺北遺跡SX05等がある。本土坑の石組みも内側に面を持ち、本来は四周する構造であった可能性が高い。土層断面の観察では木棺痕跡等は確認できなかったが、土坑墓と考えた。石組みの残存状況から埋葬部分の範囲は、土坑規模よりも一回り以上小さく、石材の範囲及び土坑の立ち上がりから、その範囲は長辺約1.6m、短辺約0.6mと想定する。下層埋土については全量を篩選別したが人骨・歯等は見つからなかった。

村東遺跡においてこれまでの調査で判明した墓は6基あり、そのうち、11区ST01と6区ST01は木棺墓である。その他の墓は埋葬施設が確認できず、土葬墓であったと考えられる。検出した位置から4-2区ST01と6区ST01は建物跡の内側にあたり、概ね柱間の中間に位置している。今回の墓もSB02もしくはSB04の建物内に位置し、建物の柱との切合い関係はない。検出状況からは4-2区ST01、6区ST01と共に通性を見いだせ、かつ墓の主軸もSB04と概ね揃っていることからSB04に伴う可能性も考えられる。ただ、4-2区ST01と同じ時期とみられる11区ST01は建物の希薄な部分に構築され、他の3基についても建物跡とは離れた位置にあることから、その存在形態は複数あることが明らかである。

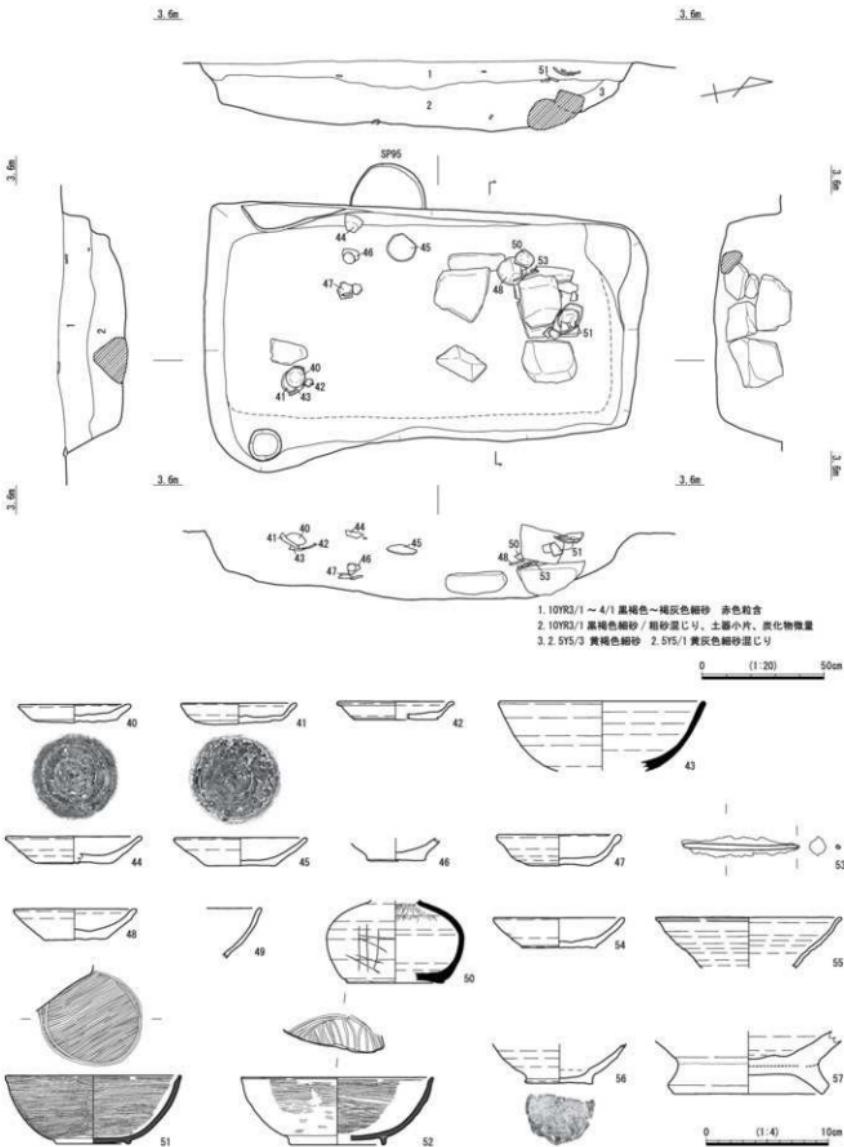


図13 ST01 平面・断面図、出土遺物垂直分布図・実測図

遺物は土坑南側から底部へラ切りの土師器皿40～42、須恵器碗43が、西寄りから底部へラ切りの土師器皿44～47と底部糸切りの土師器皿45、底部糸切りの土師器碗46が出土した。これらの遺物のうち40～45は埋土上層からの出土で、46・47は底面からやや浮いた状態で出土した。上層から出土した資料が本遺構に帰属することについては疑問が残る。ただ、完形に近い遺物が含まれていることも事実であり、調査時に見逃した掘り込みがある可能性は否定できない。これに対して石組みの周辺からは、底部へラ切りの土師器皿48、須恵器壺50、土師器碗49、黒色土器碗51、鉄製品53が出土した。49を除けばいずれも完形に近く、石組みと接して出土していることから原位置を保っている可能性が高い。53は両端とも尖っており、釘の可能性もあるが詳細は不明である。その他、埋土中から底部糸切りの土師器平高台碗56、土師器碗55、黒色土器碗52、土師器碗57が出土した。底部へラ切りの土師器皿54は南東隅にあるピット内から出土した。ここで土師器皿の法量を概観すると、上層の40～42は口径9.5cm、器高1.5cm前後である。同じく上層の44と45は底部切り離し技法が異なるものの、口径11.0cm、器高2.2cm前後ではほぼ同じ器形を呈する。いっぽう下層から出土した土師器皿47は底部へラ切りで口径10.2cm、器高2.55cmである。石組みから出土した土師器皿48は口径10.1cm、器高2.6cmである。以上から上層の40～42は法量的にも下層とは異なる様相を呈しているといえよう。黒色土器51は内外面とも黒色を呈すB類で森分類のIV類に該当する。52は内黒の黒色土器A類である。

出土した土師器皿には糸切りとへラ切りが認められる。東播磨においては、へラ切りから糸切りへの変遷は比較的スムーズに捉えることができるが、西播磨においてへラ切り皿はその後も残存する。そこで前後の時期の資料と比較し、その位置づけを確認したい。Ⅱ期新段階にあたる小犬丸遺跡第20調査区瓦溜め7西と第21調査区瓦溜め5から出土したへラ切り皿は、切り放した底面から外方へ口縁部が立ち上がり、底部と体部の境は明瞭である。内面は緩やかに外方へ伸び境は明瞭ではない。法量は口径12.4～13.4cm、器高は2.0～2.6cmを測り、ST01の資料よりも一回り大きい。対してⅢ期古段階に位置づけられる宝林寺北遺跡土坑42の資料は全て糸切り皿で、口縁部は直線的に外方へ伸びるものは少なく、緩やかに内湾する個体が多い。底部は平坦で底部と体部の境がはっきりするものもあるが、やや丸みを帯びる個体が目立つ。法量は8.5～9.8cm、器高は1.6～2.4cmであり、上層から出土した土師器皿40～42に類似する。東播磨において同段階に位置づけられる神戸市今池尻遺跡SP1120等の柱穴出土資料群が器形的に最も類似する資料である。この資料は全て底部糸切りで、口径9.8～11.0cm、器高は2.0～2.8cmを測り、法量も類似する。

ST01の資料は西播磨においてはⅢ期古段階の宝林寺北遺跡よりもⅡ期新段階の小犬丸遺跡の資料に近い。東播磨ではⅢ期古段階に位置づけられる今池尻遺跡の資料群が形態的に最も近似するものとしてあげられる。このことからST01の資料は、西播磨においては小犬丸遺跡と宝林寺北遺跡の間に位置づけられる資料といえ、東播磨においてはⅢ期古段階にあたる底部糸切りの資料群と類似していることが判明する。共伴した黒色土器の年代観に従えば11世紀前葉頃となり、土師器の年代観ではⅡ期新段階に近い。ただ、今池尻遺跡SP1120で共伴した須恵器鉢は万堡池窯灰原出土遺物の古相と同時期とされている。近年の東播磨系須恵器の編年には従えば口縁部形態はA1-I類で11世紀中葉から後半に比定され、土師器Ⅲ期古段階の段階設定と整合する。当該時期の土師器の年代的な問題は、良好な資料が少ない現状では将来の課題とせざるを得ないものの、ここでは今池尻遺跡の資料群との類似性から、ST01をⅢ期古段階に位置づけておきたい。

## 土坑

SK02 調査区南東端で検出した。平面規模は長辺127m、短辺1.05m、深さは遺構検出面から最大で27cmを測る。断面形はやや深い皿状を呈す。調査の都合上、断面図作成位置の西側と東側とで2分し、まず西半分を、調査の終盤で東半分を調査した。土坑の北寄りから遺物がまとまって出土した。南側からの遺物の出土はなく、土坑内の遺物は当初から北寄りに置かれたようである。内訳は須恵器壺1点、土師器杯19点、土師器碗3点、須恵器碗2点である。その他、破片が若干出土しているが、基本的に完形に近いものが多く、図15に全て図示した。出土状況は須恵器壺82を土坑北寄りに正位に置き、その周辺に土師器杯を据え、更にその外側に土師器碗を配している。杯は正位もしくは逆位で、単体あるいは重ねるか合わせ口にした状態で出土した。土師器碗78と79は逆位の状態で、77は正位で置かれており、極めて一括性の高い

資料群と位置づけられる。また、完形の遺物が多いことから単なる廃棄土坑でないと考えられる。類似する遺構として加西市三子遺跡が挙げられる。三子遺跡では、土師器碗を伴わないが、土坑の中央部に須恵器壺を据え、その周間に土師器杯を置くなど、出土状況も類似している。三子遺跡は土器埋納遺構と位置づけられており、SK02もそれに類すると思われるが、その性格は不明である。

出土遺物は底部ヘラ切りの土師器杯と底部糸切りの土師器碗、底部糸切りの須恵器碗で構成される。この組成はⅡ期新段階に位置づけられるが、西播磨では以後も土師器杯がヘラ切りを主体とすることから、本遺跡の資料とたつの市の小丸遺跡及び宝林寺北遺跡の資料との比較を行い、その位置づけを確認しておく。小丸遺跡の瓦溜めでは、杯は底部ヘラ切りで平底というよりも丸底に近い形態のものが大半を占める。各瓦溜めには大きな時期差はないものと想定されるが、21調査区瓦溜め5、20調査区瓦溜め7の杯の法量は12~13cm台、器高は3.5~4.5cmとSK02よりも一回り大きい。20調査区瓦溜め3と瓦溜め2の杯は11~12cm台、器高も3cm台と概ね同じである。土師器碗は口径が12~13cmの小、14~16cmの中、17cm以上の大と分化するが、このうちSK02資料は中サイズに該当する。器形は体部が直線的なものもあるが、内湾気味に立ち上がり、口縁部が外反する器形も確認できる。Ⅲ期古段階に位置づけられる宝林寺北遺跡土坑42では、土師器杯は出土していないが、土師器碗は直線的な器形を呈し、本資料は小丸遺跡の資料群との類似性が確認できる。

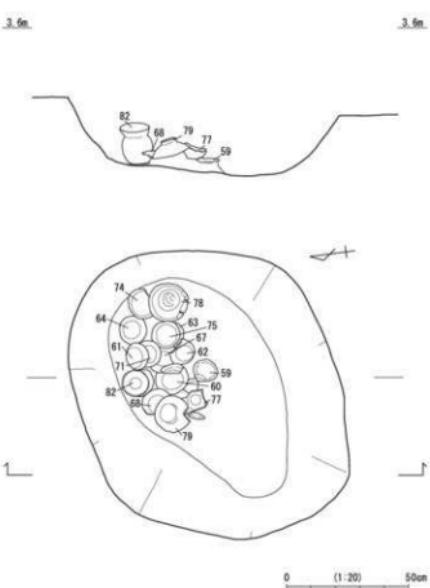


図14 SK02 平面・立面図

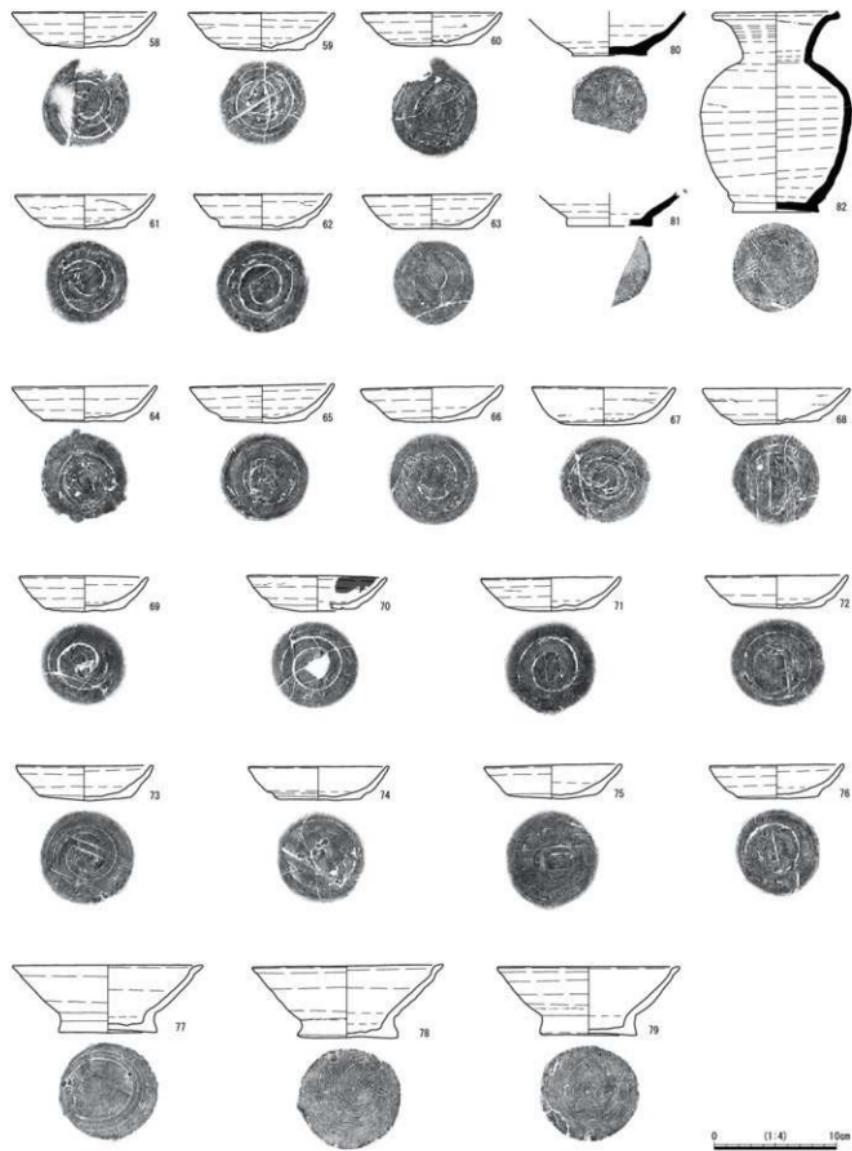


図15 SK02出土遺物

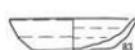
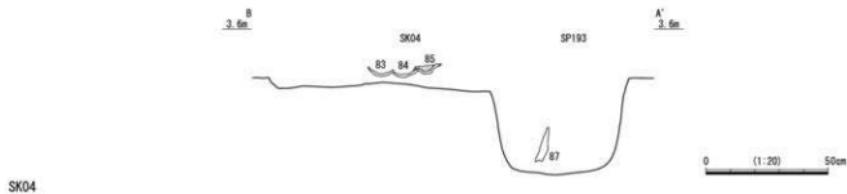
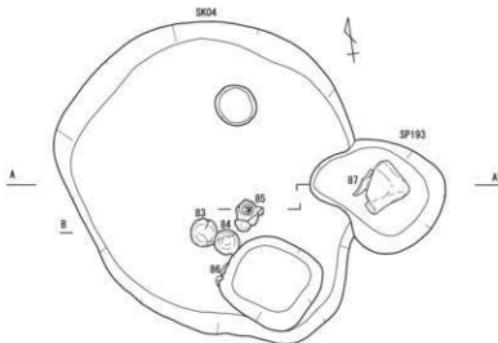
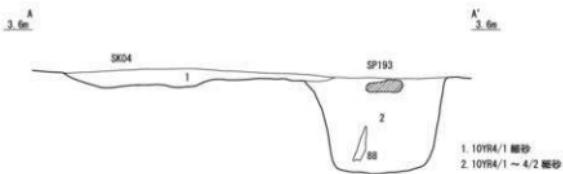
**SK03** 調査区東部で検出した。SB02を構成するSP86に切られる。平面形は円形を呈し、規模は長辺1.02m、短辺87cmを測る。深さは遺構検出面から最大で20cmを測る。土坑の西肩と東肩は幅3cm程が帯状に赤化している。ただ、土坑内は全く被熱しておらず、埋土も炭化物を多く含むものの焼土等は確認できなかった。遺物は縁袖陶器椀97と須恵器壺98が出土した。縁袖陶器椀は濃緑色を呈す硬陶である。須恵器壺は肩部に突帶が巡る。

**SK04** SK03の北西約1.4mの位置で検出した。平面プランはSB02・SB03と重なるが直接の切り合い関係はない。平面形はやや歪な円形を呈し、規模は長辺1.28m、短辺1.23m、深さは遺構検出面から5cm程である。土坑底は平らで中央やや南寄りの位置で土師器杯83・84と土師器椀85をいずれも正位の状態で検出した。83と84は底部ヘラ切りで、85は底部糸切りである。土師器杯86は底部ヘラ切りである。SP193はSK04の埋土を掘り下げた時点で検出した。平面形は東西にやや長い円形を呈す。規模は長辺55cm、短辺46cm、深さは遺構検出面から40cmを測る。上部に扁平な河原石があり、その下部の埋土から短頸の土師器羽釜87が出土した。Aタイプの短頸の羽釜である。

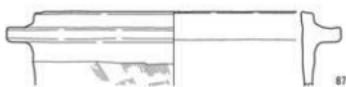
**SK08** 調査区北部、SA03の約30cm北の位置で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、規模は南北1.26m、東西48cmを測る。土坑の断面形は浅い皿状を呈し、深さは遺構検出面から10cmを測る。土坑南寄りで深さ約30cmのビットを検出した。ビットはSK08と本来は切り合う可能性もあるが、断面観察ではSK08と同時に埋まっていることから一連のものと判断した。検出時点で埋土上面に須恵器椀93が露出していた。ビット内からは遺物の出土はなく、全て上位からの出土である。土坑北側からは底部ヘラ切りの土師器皿88・89、須恵器椀93・95が出土した。土坑南側からは須恵器椀91が、ビットの肩部分からは鉄釘96が出土した。頭部の折れる折釘である。土坑の規模に比してまとまって遺物が出土したが、その性格は判然としない。

**SK11** 調査区中央、ST01の西約3.9mの位置で検出した。検出位置はSB04と重なるが柱穴等の直接の切り合い関係はない。SP62とSP63が本土坑を切る。平面形は南北に長い隅丸方形を呈す。規模は長辺2.55m、短辺1.28m、深さは遺構検出面から22cmを測る。短辺については、検出時点では1.42mほどの幅があったが、掘り下げに伴い縮小した。本遺構も当初は平面プランの類似からST01と同様の性格を考えたが、石組みをもたないことと、遺物に完形品が少ないと墓の可能性は低いと判断した。遺物は絶じて上層埋土からの出土である。底部ヘラ切りの土師器杯102、底部ヘラ切りの土師器杯103、厚い体部と三角形状に尖った口縁部を持つ土師器杯104、底部糸切りの土師器椀105、須恵器壺106である。SK11を切るSP62から出土した平瓦107の凸面には砂が付着しており、離れ砂の可能性もある。SP63からは底部糸切りの土師器椀108と底部ヘラ切りの須恵器椀109が出土した。

**SK14** 調査区の東部北端で検出した。調査区外の北側へ広がるため、全容は不明である。検出規模は南北74cm、東西75cmを測り、深さは遺構検出面から30cmである。断面形は中央部のやや深い皿状を呈す。遺物は埋土上層から底部糸切りの土師器椀99、短頸Aタイプの土師器羽釜101が出土した。須恵器椀100は土坑内の埋土中から出土した。



SK04



0 (1:4) 10cm

図16 SK04 平面・断面図、出土遺物実測図

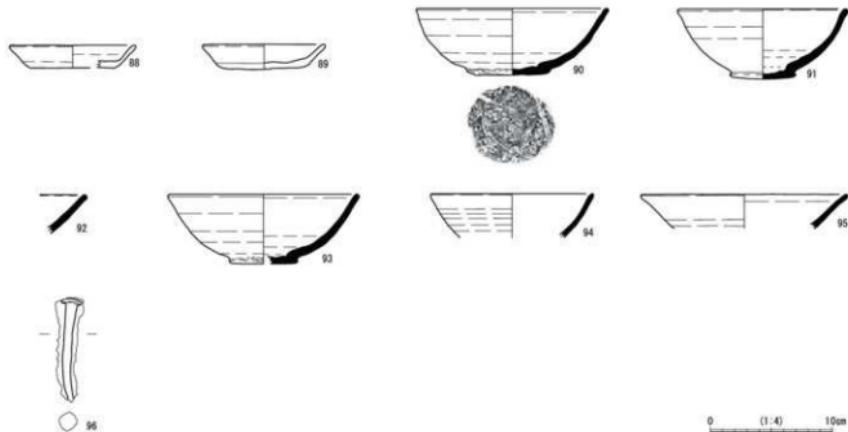
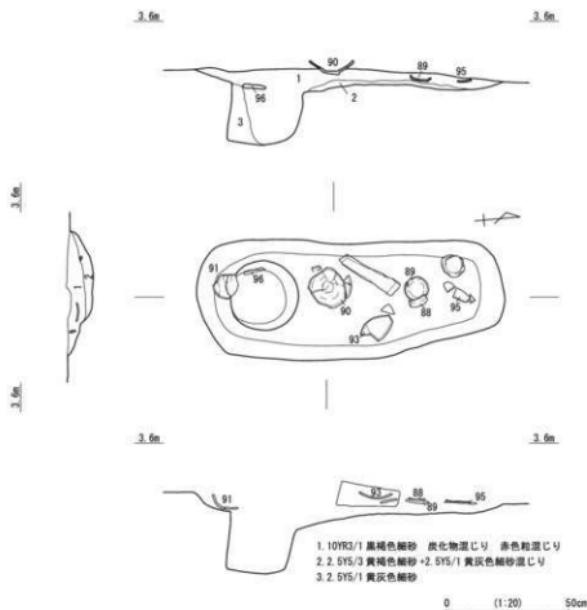
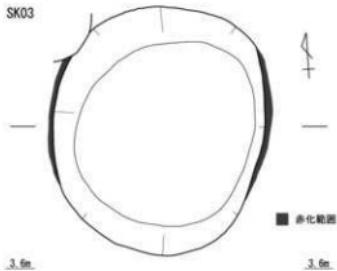


図17 SK08 平面・断面図、出土遺物実測図

SK03



■ 無化範囲

3.6m



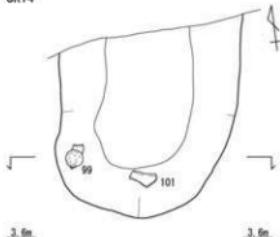
0 (1:4) 10cm



1. 10YR3/1 黒褐色細砂 壓化物微量含む
2. 10YR3/1 黒褐色細砂 中位に圧化物多量に含む
3. 10YRA/1 黒灰色細砂

0 (1:20) 50cm

SK14



0 (1:4) 10cm

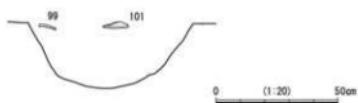


図18 SK03・SK14 平面・断面図、出土遺物実測図

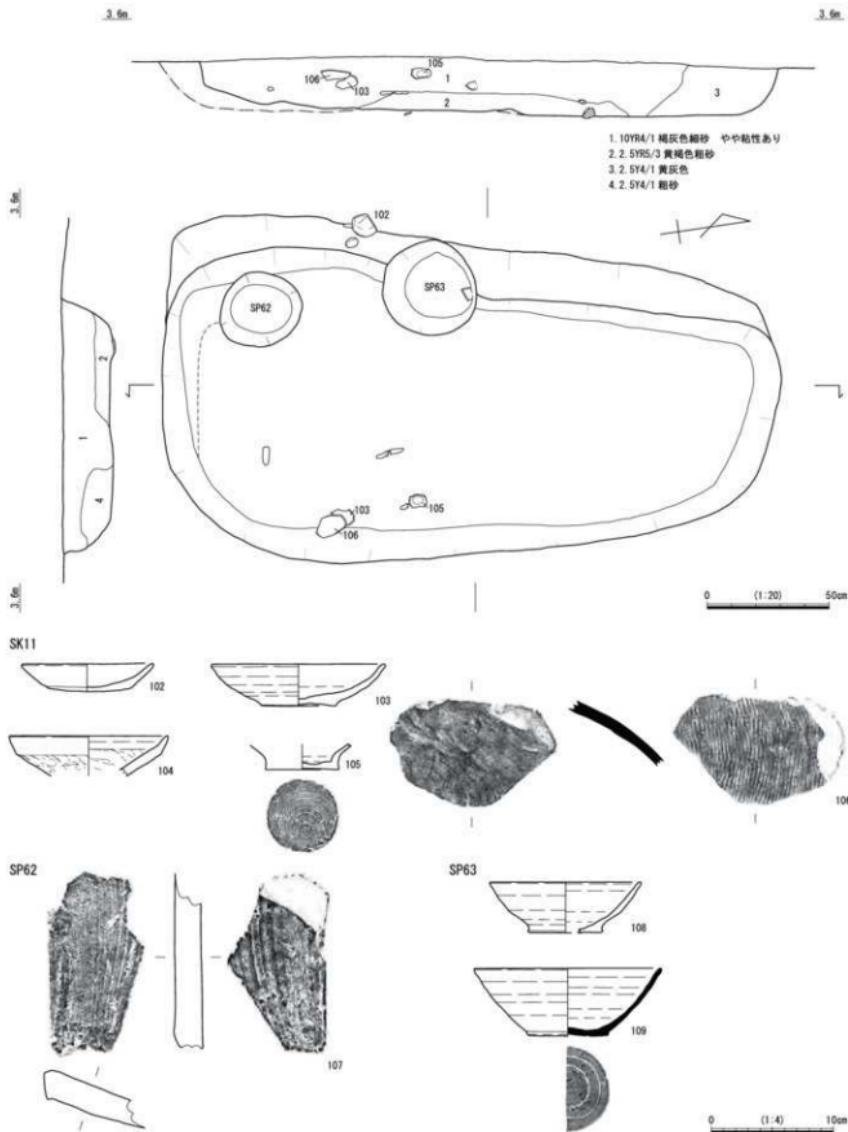


図19 SK11 平面・断面図、出土遺物実測図

**SK15** SB01に重なる位置で検出した。SD02に切られる。平面形は隅丸長方形を呈し、南北に長い。検出規模で南北1.46m、東西92cmを測る。深さは遺構検出面から20cmを測る。土坑の中央付近から南にかけて遺物がまとまって出土した。出土位置は埋土上層がやや多いものの、下層にかけても出土しており、一括性は高いと判断できる。

土師器皿110～117は全て底部ヘラ切りである。底部が平底になる110・111・115と底部が突出する114に分けられる。112・116は底部の中央付近に切離し時の粘土が残り、わずかに突起状をなすが、平底を意識したものであろう。113は外面にススが付着している。須恵器椀118・120は底部糸切りで、118は体部に沈線を持つ。他に須恵器椀119、土師器甕壺121が出土した。土師器皿はST01上層出土の皿40～42に類似することから、Ⅲ期古段階に位置づけられる。

#### 柱穴

調査では261基を検出した。その多くから遺物が出土しているが、ほとんどが細片であり、図示に耐えうるものは少ない。ただ、大半の遺物は、胎土や厚さから大きく食膳具か煮炊具・貯蔵具かの区別は可能であるので、それらについては巻末の一覧表にまとめた。ここでは柱穴のうち、図示に耐えうる遺物が出土したものについて述べる。

**SP54** SB04を構成するSP53とSP55の間で検出したが、SB04には伴わない。平面形は南北に長い梢円形を呈し、規模は長軸81cm、短軸44cm、深さは遺構検出面から35cmを測る。遺物は土坑底から須恵器椀122と123が出土した。122は体部に沈線が巡る。柱痕跡ははっきりとしなかったが、須恵器椀122が出土した位置がわずかに凹んでおり、この部分が本来の柱の当たりであった可能性を指摘できる。

**SP128** SK03の西約60cmの位置で検出した。平面は略円形を呈し、直径30～36cm、深さは遺構検出面から18cmを測る。柱痕跡ははっきりとはしていない。埋土中程から土師器甕壺124が出土した。

**SP150** 調査区北端、SK08の北20cmの位置で検出した。平面は円形を呈し、直径37cm、深さは遺構検出面から17cmを測る。柱痕跡の埋土下部から底部ヘラ切りの土師器杯125が出土した。

**SP166** SK04の北約50cmの位置で検出した。平面は梢円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸50cm、深さは遺構検出面から最大で37cmを測る。遺物は須恵器椀126、黒色土器椀127、土師器羽釜128が出土した。127は黒色土器B類で内外面ともミガキが良好に残る。掘方上層から出土した。

その他、出土状況は記録していないが、SP56から土師器杯の口縁部129が、SP135から黒色土器B類椀の130が、SP172からは底部ヘラ切りの土師器杯131が、SP208から須恵器椀132が出土した。SP235からは底部糸切りの須恵器椀133が、SP245からは底部糸切りの須恵器椀134が出土した。

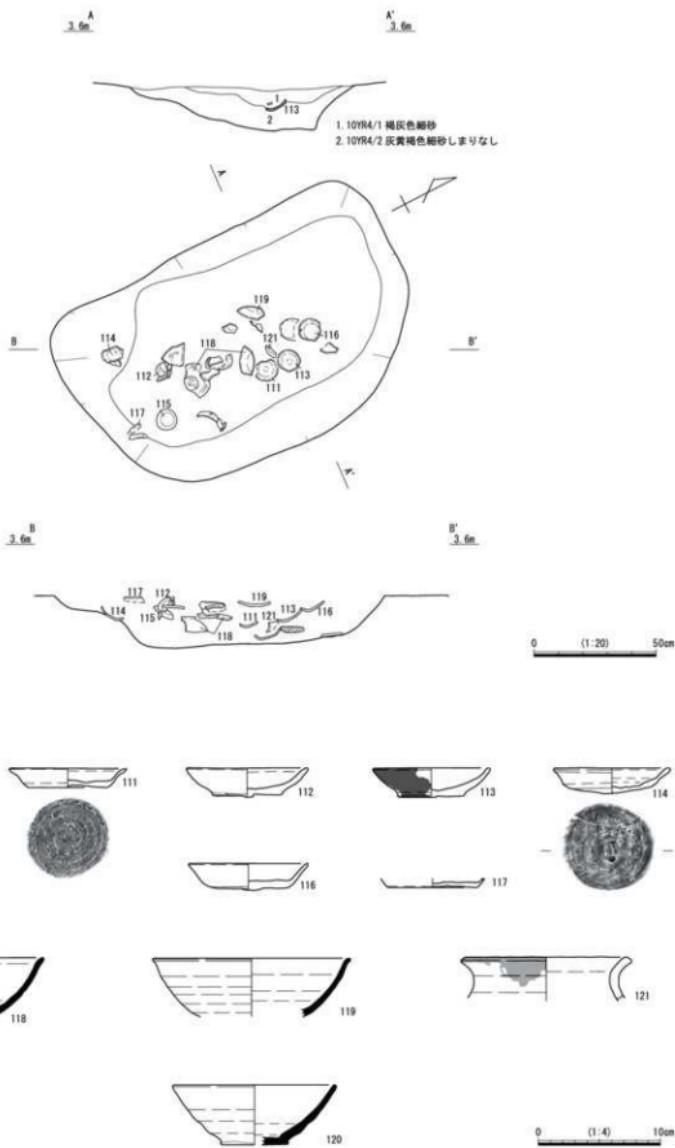
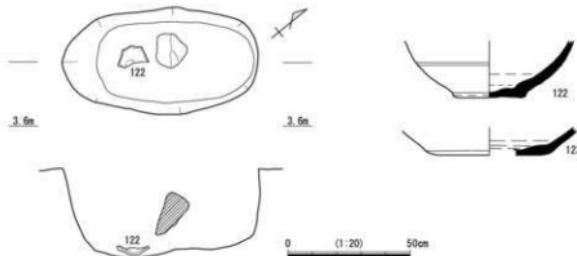
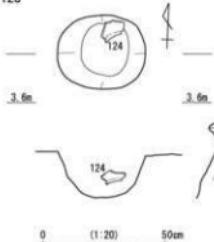


図20 SK15 平面・断面図・出土遺物垂直分布図・実測図

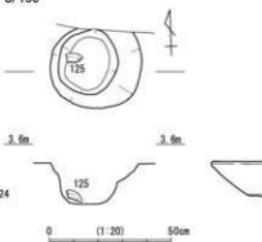
SP54



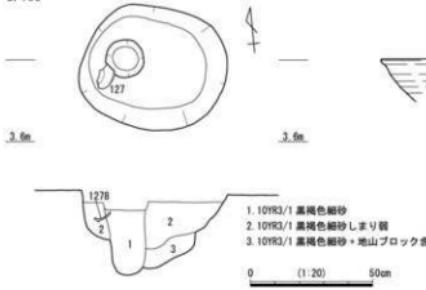
SP128



SP150



SP166



## 柱穴出土遺物

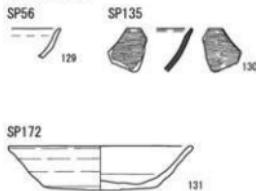


図21 柱穴 平面・断面図、出土遺物実測図

### 遺構に伴わない遺物

包含層から多くの遺物が出土したが、図化に耐えうるものは少ない。特徴的な遺物のみ図化した。土師器碗135は底部糸切りで体部がわずかに内湾し、口縁部が外反する器形を呈し、SK02出土遺物と共通する。黒色土器碗136はB類で口縁端部に沈線が巡る。須恵器壺137は体部上半に凸帯が巡るもので、耳部が残存している。銭138は初鉄1064年の治平元宝である。村東遺跡においてこれまで当該時期の銭の出土は確認しておらず、初見となる。

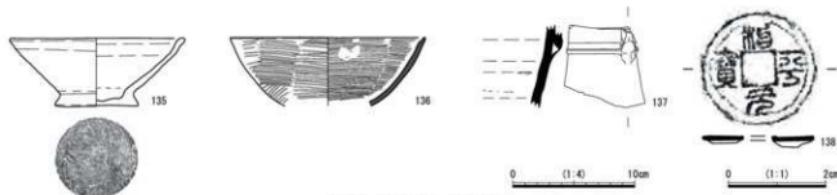


図22 包含層出土遺物実測図

## 第Ⅳ章 総括

調査で遺物がまとめて出土した遺構の土器組成を表1に示した。

遺構	へラ切り皿			糸切り皿			杯			平高台碗			輪高台碗			須恵器碗			須恵器壺			
	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数	口径	器高	点数
ST01	6	9.25~11.2	1.5~2.6	1	10.9	2.3								2	15.2	-	1					2
SK02							20	10.6~12.3	2.8~3.4	3	15.0~16.15	5.6~6.2									2	
SK04							3	10.4~14.7	2.9~3.5	1	-	-									3	
SK08	2	10.1~10.4	1.9~2.06																			
SK11	1	10.65	2.75				1	14.3	3.4	1	-	-										
SK15	8	8.7~10.0	1.5~2.6																		2	
SK18	2	11.0~11.3	2.5~2.7	1	11.3	2.8				1	12.2	4.5	1	1	1							
SB01	1	9.9	1.95				1	-	-											1	2	
SB02	1	9.5	1.4				1	-	-													
SB03	1	9.8	1.7																			

表1 遺構出土遺物組成

土師器皿については、基本的にへラ切りを主体とする組成であるがST01、SK18において糸切り皿が伴う。ST01とSK02で検討したように、これらの遺構はⅡ期新段階からⅢ期古段階に位置づけられる。形態的にはST01の資料はⅢ期古段階の今池尻遺跡に、SK02はⅡ期新段階の小犬丸遺跡の資料と類似する。Ⅲ期は糸切り皿と糸切り杯の出現をもってⅡ期と区分したものであるが、この区分は東播磨地域において明瞭で、Ⅲ期以降土師器皿と土師器杯がへラ切りから糸切りへと移行する。土師器皿は以後糸切りが主体となり、やや遅れて手づくね皿の出現という動きが確認できている。対して西播磨地域においては、糸切り皿の出現は明確であるものの、その後も皿と杯のいずれにもへラ切りが残存し、かつ出土量も拮抗する状況である。また、Ⅲ期古段階に位置づけられるのは、宝林寺北遺跡土坑42のみであり、当該時期の資料の様相は量的に担保できているわけではない。そのため、西播磨におけるⅡ期からⅢ期にかけての様相は東播磨に比べて曖昧な状況である。今回の調査で出土した遺物は黒色土器を含むなど共伴資料にも恵まれるが、当該時期の型式学的な検討は今後の課題であることを認識しつつ、実年代としては11世紀中頃を中心とし、その前後を含む時期に位置づけておきたい。村東遺跡における区画整理

事業に伴う1次～9次調査では、Ⅰ期新段階、Ⅲ期新段階、Ⅳ期古・新段階の資料を確認できていたが、今回の調査によりその間を埋める資料群を得ることができた。

これまでの調査によって、検出した遺構の主軸は時期毎に決まった主軸方位をもつものではないことが判明している。村東遺跡の特徴として、遺構間の切合が非常に少ないという点が挙げられる。このことは同一地点で建物の建替え等をほとんど行わず、場所を変えながら変遷したことを示している。Ⅱ期新段階からⅢ期古段階の遺構は、今回の調査区にはほぼ限られており、未調査部分を含めても遺跡内においてその広がりは大きくないことが予想される。ただ、SB01と重なる位置でⅠ期新段階の埋甕を検出しておらず、Ⅰ期の遺構が本調査区まで広がっていることが判明した。

これまでの調査成果をまとめた図23に基づけば、Ⅰ期新段階の遺構の広がりは4-1区から10次調査区にかけて、Ⅱ期新段階からⅢ期古段階の遺構は10次調査区周辺、Ⅲ期新段階は4-2区周辺、Ⅳ期古段階は5区から6区、10区、11区にかけて確認できる。Ⅳ期新段階は10-1区、11区、12-1区にかけて確認できる。遺構の分布はⅠ期～Ⅲ期にかけては比較的限られた範囲、Ⅳ期になってその範囲が広がる特徴が読み取れる。遺跡の中心は微地形の復元から周辺よりやや高い、微高地にあたる部分で、その範囲は東西200m×南北160mほどで決して広いとは言えない。その範囲の中で場所を変えながら継続的に生活を営んだことが今回の調査を通じてより明らかとなった。

次に出土遺物の組成について言及する。出土遺物については、図示に耐えうるものは図化する方針をとった。図示していない遺物については、器形の区別できるものもわずかに存在するが、器種分類の信頼度は低くなるものが多い。そこで胎土・厚さ等からある程度判断できる食膳具、煮炊具、貯蔵具といった分類を行いその組成を示した。ただ、細片であるため、誤認の可能性は排除できない。表2にこれまでの調査で包含層から出土した遺物数を記した。遺物の時期については、上記のような破片資料であるため、特定することは不可能である。ただ、前述したとおり調査区毎に遺構の時期はある程度限定できるため、基本的には遺構の時期と大きくかけ離れたものではないと考える。

調査区	土師器・須恵器・食膳具										調理・貯蔵具										その他					
	土師器 全件数	土師器 品目数	土師器 品目	須恵器 全件数	須恵器 品目数	須恵器 品目	食膳具 全件数	食膳具 品目数	食膳具 品目	調理具 全件数	調理具 品目数	調理具 品目	貯蔵具 全件数	貯蔵具 品目数	貯蔵具 品目	その他 全件数	その他 品目数	その他 品目	合計 全件数	合計 品目数	合計 品目					
4-1区	1,295	750	852	4,155	4	108	5	1	38	7	14	237	11,861	112	8,721	293	18,153	65	8,653	1,257	154	1,233	40,278			
4-2区	1,139	627	583	4,034	4	20	22	154	0	0	0	0	1,610	108	284	6,655	102	12,954	20	12,281	69	65,265	134	684	2,647	22,287
5-1区	428	387	381	2,758	0	0	1	5	20	286	1	35	69	285	100	5,282	140	2,887	62	3,223	4	4,617	381	402	13,014	
5-2区	118	417	110	768	0	0	0	0	2	180	0	0	11	18	14	388	66	466	27	710	4	312	27	112	142	2,317
10-1区	173	2,172	315	4312	0	0	0	0	15	187	5	36	27	170	1,126	224	2,574	142	4,115	28	517	2,798	17	137	1,009	18,045
11区	434	1,283	614	2,240	0	0	1	9	8	40	4	175	17	188	384	4,086	234	3,009	30	13,997	2,027	6,191	71	331	1,614	16,702
12-1区	2,024	10,095	3,007	31,021	8	165	82	398	40	301	31	200	205	1,024	2,058	712	3,087	3	312	693	4,208	1,023	20,019			

表2 調査区別包含層出土遺物数量表

表2に基づき、図23中にその組成を示した。今回の調査区である10次調査区では土師器・食膳具が半数を占め、4-2区と同様の組成を示す。その他の調査区では土師器と須恵器の食膳具の比率はほぼ均衡している。食膳具全体の比率はいずれの調査区でもほぼ類似し、7割から8割近い。調理具は約1割から2割を占めている。貯蔵具は調理具の約半分程度であり、破片数による比較であるにも関わらず比率が低いことから、当初から遺跡内において貯蔵具が相対的に少ないことが判明する。多数を占める食膳具のうち、いわゆる搬入品である黒色土器や瓦器、磁器類は少なく、これらの食膳具は商品ではなく遺跡内において消費されたものであると考えられる。特徴的な遺物としては、SB02を構成するSP207から漆付着土器

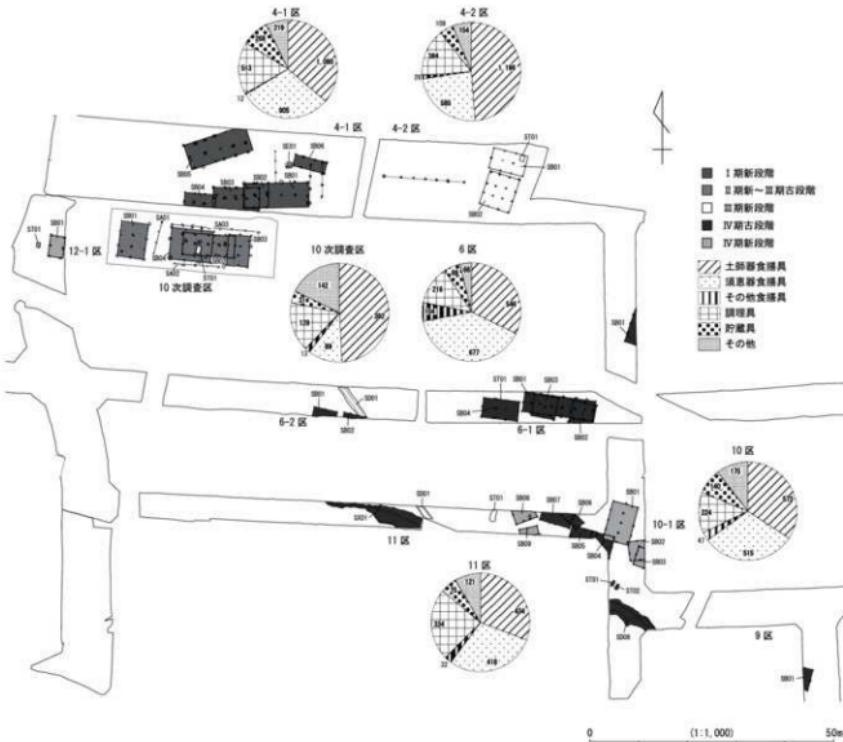


図23 村東遺跡主要遺構 時期別配置図

が、4-2区と11区において軸の羽口が出土している。今回の調査でSK03において被熱痕跡が確認され、これらから遺跡内において鍛治や漆工等の活動が行われたことがわかるが、遺構・遺物の量的にもそうした生産活動が遺跡の主要な要素であったとは言えそうにない。また、遺物の組成も食膳具が圧倒的多数を占め、食事に伴う調理具がそれに次いでいる。夢前川河口付近という本遺跡の立地から、流通に関わる生業の存在を想定することも可能であるが、調査成果に基づく限り、日常的な消費活動を中心とした集落遺跡と評価すべきであろう。

最後に集落の変遷を考えるにあたり、検出した屋敷墓についてまとめる。これまでIII期新段階の4-2区STO1、11区STO1を初現としていたが、今回の調査によりさらに遡ることが判明した。現在、播磨地域において知られている屋敷墓で最も古く位置づけられるのは11世紀後半の美乃利遺跡SX02、大野遺跡SK57である。大野遺跡SK57は、土坑の北側に須恵器壺や黒色土器を配するなど、組成の面からも10次STO1と類似する。10次STO1は大野遺跡SK57と概ね同時期と考える。10次STO1の造営以後、4-2

ⅩST01、11区ST01が続き、Ⅳ期古段階の6-1区ST01、それよりやや時期の下る10-1区ST01・ST02、Ⅳ期新段階の12-1区ST01へと継続して構築されている。副葬品は基本的に皿と椀で構成され、10次ST01に須恵器壺、11区ST01にガラス製の玉、10区ST02に小刀が伴っている。

播磨地域において、副葬品の組成を検討した宮原文隆によれば、①鏡を副葬、②青白磁を副葬、③白磁や青磁の碗・皿、小刀等を副葬、④土器類を副葬、⑤副葬品なし に分類している<sup>(1)</sup>。本遺跡の屋敷墓の副葬品は10次ST01を除けば③に該当している。宮原の分類に従えば③の副葬品を持つ階層は公文級領主ないし農民と想定されている。10次ST01は上記分類に従えば④に該当するが、宮原の検討した資料が12世紀から13世紀であることを勘案すると、時期が遡る本資料についても④と同列に位置づけられるかは不明である。

橋田正徳は、屋敷墓に関わる建物群の規模から造営者を名主層と在地領主層に分類している<sup>(2)</sup>。その研究を参考にすれば、村東遺跡においては調査区の関係から建物の全容が判明する例は少ないものの、建物跡は概ね床面積40~100m<sup>2</sup>の総柱建物跡であるB型建物群に該当し、造営層は有力名主層とされており、宮原の想定した階層とも矛盾はない。村東遺跡で最も大型の建物である6-1区SB01は検出規模で床面積62.78m<sup>2</sup>を測り、さらに調査区外に広がることが想定されることから床面積が100m<sup>2</sup>以上になる可能性を有す。6-1区SB01に近接する6-1区ST01の造営層は在地領主層を含む階級である可能性も考えられる。以上のように先行研究に基づけば、村東遺跡において生活を営んでいたのは領主層もしくは名主層といえそうである。

屋敷墓を成立させた要因は、在地領主層を対象として検討した勝田至によれば「①開発者の靈と土地(とくに屋敷地)との結びつきという観念、②それを支えている屋敷・土地の所有と繼承というイエ制度、③墓(死体)に死者の人格が残るという観念、の3つが複合」したものとする<sup>(3)</sup>。こうした研究を参考にすれば、村東遺跡においてはⅠ期新段階に集落が発生し、Ⅲ期古段階頃に「イエ」が成立したといえる。以後、鎌倉時代に至るまで連続と複数の「イエ」が成立し、集落が營まれたことがうかがえる。なお、Ⅰ期新段階に位置づけられる埋糞について、たつの市宮脇遺跡や神戸市の北別府遺跡の例では藏骨器と考えられている。こうした藏骨器は屋敷墓として扱われていないが、村東遺跡の初現期にあたる時期の資料でもあり、集落の成立と無関係でないと考えられる。

村東遺跡では調査面積に比して多くの屋敷墓が検出され、建物跡との関係も読み取れる。かつ、屋敷墓は継続して造営されていることが判明した。調査範囲の関係で建物と屋敷墓を含む屋敷地の全体像についてははっきりとは分からぬが、集落の広がる範囲は限定的であり、平野部に展開する集落のように条里地割の内部を区画する屋敷地ではなかったと想定される。むしろ自然地形に沿った形で集落が營まれていたと考えられる。

以上のとおり、本遺跡は出土遺物の検討から建物跡の変遷も大まかに捉えることができ、播磨地域における平安時代の集落跡としては比較的様相が明らかとなった遺跡の一つであると考える。平安時代における播磨地域の集落様相は他地域に比べて不明な部分が多く、窯址などの生産遺跡に比べると著しく遅れている。本遺跡で判明した集落様相は、播磨地域における平安時代の集落を知るうえで極めて重要な成果と位置づけられよう。

平面プラン	出土遺物
10次 ST01 	
4-2区 ST01 	
11区 ST01 	<p>箱内</p> <p>箱外</p>
6-1区 ST01 	
10-1区 ST01 	
10-1区 ST02 	
12-1区 ST01 	
0 (1.0) 1m	

図24 村東遺跡層數基査図

註

- (1) 宮原文隆 2002「兵庫県内における平安時代末から中世の墓の様相」『思い出遺跡群IV』中町文化財報告 27
- (2) 橋田正徳 1991「屋敷墓試論」『中近世土器の基礎研究VII』日本中世土器研究会
- (3) 勝田 至 1988「中世の屋敷墓」『史林』71巻3号

遺物の位置づけについては、下記を参考にした。

須恵器：中世土器研究会事務局 2015「東播系須恵器鉢の分類と編年」『中近世土器の基礎研究』26

兵庫県教育委員会 1986『相生市・緑ヶ丘窯址群』

兵庫県教育委員会 1995『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』

兵庫県教育委員会 2003『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅲ』

森田 稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『研究紀要』3 神戸市立博物館

1995「須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』

森内秀造 2015「神出窯須恵器の生産地編年の再検討にむけて」『中近世土器の基礎研究』26

黒色土器：森 隆 1995「黒色土器」『概説中世の土器』

参考報告書

緑ヶ丘古窯址群：兵庫県教育委員会 1986『相生市・緑ヶ丘窯址群』兵庫県文化財調査報告第

1995『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第

2003『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第 253 冊

上池遺跡：神戸市教育委員会 1989『昭和 61 年度神戸市埋蔵文化財年報』

溝之口遺跡：兵庫県教育委員会 2006『溝之口遺跡』兵庫県文化財調査報告第 309 冊

宿原寺ノ下遺跡：兵庫県教育委員会 2004『宿原寺ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告第 264 冊

大野遺跡：兵庫県教育委員会 2010『大野遺跡』兵庫県文化財調査報告第 380 冊

今池尻遺跡：神戸市教育委員会 1995『平成 4 年度神戸市埋蔵文化財年報』

神戸市教育委員会 2003『今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書』

玉津田中遺跡：神戸市教育委員会 2000『玉津田中遺跡発掘調査報告書 第 8・10・12・13・15 次調査』

北別府遺跡：神戸市教育委員会 1983『昭和 56 年度神戸市埋蔵文化財年報』

円教寺薬師堂：大手前大学史学研究所 2013『播磨六箇寺の研究 I—書写山円教寺の歴史文化遺産（一）』

宮脇遺跡：兵庫県教育委員会 1995『宮脇遺跡』兵庫県文化財調査報告第 138 冊

小犬丸遺跡：龍野市教育委員会 1992『布勢駅家』龍野市文化財調査報告 8

龍野市教育委員会 1994『布勢駅家Ⅱ』龍野市文化財調査報告 11

宝林寺北遺跡：兵庫県教育委員会 1987『宝林寺北遺跡』兵庫県文化財調査報告第 49 冊

兵庫県教育委員会 2002『宝林寺北遺跡Ⅱ』兵庫県文化財調査報告第 223 冊

三子遺跡：加西市 2010『加西市史』第 7 卷 史料編 1 考古

遺物観察表

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存	焼成	胎土	色調	特記事項
1	SP29	須恵器	瓶	-	(2.1)	(6.1)	(12.3)	底部3/4	普通	胎, φ2mm以下の長石, 赤色 粒子等含む	10YR8/2淡黃褐色	直筒瓶口無切口
2	SP33	土師器	皿	(9.9)	1.95	(7.1)	-	1/3	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 石英, 赤色粒子等含む	3YR8/6橙	底部へ少少切り
3	SP33	須恵器	瓶	-	(6.6)	-	-	口縁1/10	普通	胎, φ2.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/1灰白色	回転ナデ
4	埋甕	土師器	片	14.2	5.0	-	-	1/1	良好	胎, φ3.0mm以下の長石, 赤 色粒子等含む	7.5YR8/4淡黃褐色	底部へ少少切り後、端部打痕有
5	埋甕	土師器	甕	27.1	27.0	-	27.6	1/1	良好	胎, φ3.0mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	SYR8/6橙	外蓋タハケ後底部ヨコハラ、直面
6	SP80	土師器	片	-	(1.4)	(6.2)	(9.45)	底部1/4	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/2淡黃褐色	直筒瓶口無切口
7	SP81	土師器	瓶	-	(2.4)	(6.4)	(11.2)	底部1/4	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/1灰白色	底部へ少少切り
8	SP81	須恵器	片	(3.6)	3.1	(3.6)	-	1/4	甘	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR8/41C-L5L1橙	直筒へ少少切り、内蓋入付箋
9	SP81	須恵器	瓶	-	(1.65)	5.3	(8.1)	底部1/1	普通	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/1灰白色	直筒瓶口無切口
10	SP81	須恵器	甕	(16.0)	(2.5)	-	-	口縁1/6	普通	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	5Y5/1灰	直筒瓶、蓋ね痕有
11	SP81	須恵器	瓶	(12.8)	(3.0)	-	-	口縁1/6	甘	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	N7/灰白色	内蓋重ね痕有
12	SP82	須恵器	甕	-	(14.8)	-	-	断面1/20	良好	胎, φ3.0mm以下の長石等含む	N8/灰	外蓋タハキ
13	SP82	土師器	羽皿	(17.2)	(10.6)	-	(23.0)	口縁1/6	普通	胎, φ1.2mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/1灰白色	内蓋ハケ後ナデ、割貼り付け
14	SP87	須恵器	瓶	(13.0)	(3.0)	-	-	口縁1/6	普通	胎, φ1mm以下の長石, 石英 粒子等含む	N7/灰白色	外蓋重ね痕有
15	SP88	須恵器	瓶	-	(3.8)	-	-	口縁1/6	普通	胎, φ2mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	N6/灰	回転ナデ
16	SP88	飴製品	釘か	直大高15.5	直大幅2.5	-	-	1/1	-	-	-	直筒瓶耳、両端とも丸孔
17	SP91	土師器	瓶	(14.0)	(4.4)	-	-	口縁1/6	普通	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	5YR7/6橙, 2.5YR8/6橙	底部へ少少切り
18	SP91	須恵器	瓶	(14.0)	(5.1)	-	-	口縁1/6	普通	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	N7/灰白色	内蓋丸型火漆
19	SP91	須恵器	瓶	-	(3.35)	(7.8)	(10.4)	底部1/4	普通	胎, φ1mmの大の長石含む	N7/灰白色	底部丸切り、外蓋スヌ付箋
20	SP207	土師器	皿	9.5	(1.4)	6.2	-	2/3	良好	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/1灰白色	底部へ少少切り、内蓋逢付箋
21	SP207	土師器	甕	(14.7)	(7.2)	-	(15.4)	口縁1/4	良好	胎, φ1mm以下の長石等含む	10YR8/2灰白	内蓋スヌ付箋、外蓋一部付箋
22	SP207	土師器	羽皿	(24.2)	(5.2)	-	(31.6)	口縁1/6	良好	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR8/1灰白色	個體貼り付け、外蓋ともスヌ付箋
23	SP118	須恵器	皿	(3.8)	1.7	-	-	3/4	普通	胎, φ2mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/3淡黃褐色	底部へ少少切り、内蓋裏面裏面
24	SP118	須恵器	瓶	-	(3.4)	-	-	口縁1/8	普通	胎, φ1mmの大の灰色粒子含む	N8/灰	口蓋部重ね痕有
25	SP124	須恵器	瓶	(14.2)	(1.6)	-	-	口縁1/5	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	N7/灰白色	内蓋重ね痕有
26	SP195	須恵器	瓶	(14.4)	6.35	(8.8)	-	底部2/5	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	N7/灰白色	直筒瓶耳、底部に模様
27	SP195	須恵器	甕	-	(3.2)	5.4	(12.8)	底部1/4	普通	胎, φ1mmの大の灰色粒子等含 む	N7/灰白色	底部丸切り、体部に模様
28	SK18	土師器	皿	(11.0)	2.5	(7.2)	-	1/2	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/6橙	底部へ少少切り
29	SK18	土師器	皿	(10.0)	2.7	9.55	-	2/3	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR7/3にぶい黄褐色	底部丸切り
30	SK18	土師器	皿	(11.3)	2.9	6.7	-	4/5	普通	胎, φ0.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR8/1灰白色	直筒へ少少切り
31	SK18	土師器	瓶	(11.4)	(3.7)	-	-	口縁1/4	普通	胎, φ3.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/6にぶい黄褐色	回転ナデ
32	SK18	土師器	瓶	(12.2)	4.5	(6.0)	-	1/2	普通	胎, φ1.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/41C-L5L1橙	底部丸切り
33	SK18	土師器	瓶	-	(2.8)	(7.0)	(9.6)	底部1/4	良好	胎, φ1mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR8/3淡黃褐色	駆輪蓋台
34	SK18	土師器	瓶	(16.4)	(3.8)	-	-	口縁2/3	良好	胎, φ2mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/2淡黃褐色	回転ナデ
35	SK18	須恵器	甕	(13.0)	4.1	7.2	-	2/3	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	5Y8/1灰	底部へ少少切り
36	SK18	土師器	甕	(22.2)	(6.7)	-	-	口縁1/4	良好	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/2淡黃褐色	内蓋板子、外蓋黒いハ、スヌ付箋
37	SP239	須恵器	瓶	(15.2)	5.35	(8.6)	-	1/2	普通	胎, φ0.5mm以下の長石, 灰 色粒子等含む	7.5YR7/1灰白色	底部丸切り
38	SD4	土師器	片	(10.7)	(2.75)	6.25	-	2/3	普通	胎, φ0.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/3にぶい黄褐色	駆輪蓋台
39	SD4	須恵器	瓶	(13.8)	4.45	4.9	-	1/2	普通	胎, φ2mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/2灰白色	底部丸切り
40	ST01	土師器	皿	9.25	1.5	6.95	-	1/1	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/2淡黃	底部へ少少切り
41	ST01	土師器	皿	9.5	1.8	7.1	-	1/1	普通	胎, φ0.5mm以下の長石, 灰 色粒子等含む	2.5YR7/4淡黃褐色	底部へ少少切り
42	ST01	土師器	皿	(9.6)	1.5	(7.0)	-	1/3	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	7.5YR7/41C-L5L1橙	底部へ少少切り
43	ST01	須恵器	瓶	(17.0)	(5.7)	-	-	口縁1/3	普通	胎, φ3.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/2淡黃褐色	内蓋一部自然剥離付箋
44	ST01	土師器	皿	(11.2)	2.2	(6.4)	-	1/4	普通	胎, φ1mmの大の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/4淡黃褐色	底部へ少少切り
45	ST01	土師器	皿	(10.9)	2.3	5.8	-	4/5	普通	胎, φ0.5mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	2.5YR7/1灰白色	底部丸切り
46	ST01	土師器	瓶	-	(1.8)	(4.8)	(7.2)	底部1/1	普通	胎, φ2mm以下の長石, 灰色 粒子等含む	10YR8/1黄橙	底部丸切り

遺物観察表

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存	焼成	胎土	色調	特記事項
47	ST01	土器群	甌	(10.2)	2.55	(5.2)	-	1/4	普通	灰、φ1mm以下の長石、黒色、 赤鉄色等含む	10YR7/3に近い黄 褐、7.3mm以下	底部へり切り
48	ST01	土器群	甌	10.1	2.6	5.2	-	口縁3/4	普通	灰、φ1mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	10YR8/2灰白	底部へり切り
49	ST01	土器群	瓶	-	(4.1)	-	-	口縁1/10	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	SYR7/2褐、10YR5/2 灰青褐	回転ナデ
50	ST01	遺差器	甌	-	(8.8)	(7.2)	(11.3)	全体1/4	普通	灰、φ1mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	N7/灰白	底部糸切り、縫剥
51	ST01	黑色土器	甌	14.4	5.6	5.6	-	3/4	良好	灰、φ1mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	N3/暗灰	内部裏面化、口縁部沈錆
52	ST01	黑色土器	甌	(15.8)	5.5	(7.4)	-	1/3	良好	灰、φ1mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	N3/暗灰、SYR7/4に 内裏墨化	
53	ST01	鉢製品	不規	最大長9.65	最大幅7.79	-	-	-	-	-	-	端部削れ、打か
54	ST01/Re01	土器群	甌	(10.8)	2.45	(8.2)	-	1/4	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	7.5YR7/4に近い褐 色、7.5mm以下	底部へり切り
55	ST01	土器群	瓶	(15.2)	4.2	-	-	口縁1/4	良好	灰、φ1mm以下の長石、石 英、赤鉄色等含む	10YR8/2灰白	クロロバクテ
56	ST01	土器群	甌	-	(3.3)	5.5	(11.0)	底部2/5	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/2浅灰	底部糸切り
57	ST01	土器群	瓶か	-	(5.15)	(12.0)	(15.3)	底部1/3	良好	灰、φ2mm以下の長石、赤色 粒子等含む	7.5YR7/3褐	黏土窯台
58	SK02	土器群	杯	11.8	3.0	(8.7)	-	4/5	普通	灰、φ0.5mm以下の白色粘土、 等含む	2.5YR7/3灰白、 10YR8/2に近い黄	底部へり切り、板状堆積
59	SK02	土器群	杯	12.0	3.15	8.85	-	9/10	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、石 英、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白、 10YR8/2灰白	底部へり切り、板状堆積
60	SK02	土器群	杯	11.5	3.4	8.9	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り
61	SK02	土器群	杯	11.4	2.95	8.8	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/2灰白	底部へり切り
62	SK02	土器群	杯	12.3	3.05	8.9	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
63	SK02	土器群	杯	11.4	2.9	8.7	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白、 10YR8/2に近い黄	底部へり切り、板状堆積
64	SK02	土器群	杯	11.9	3.15	8.8	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
65	SK02	土器群	杯	11.85	3.45	8.7	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
66	SK02	土器群	杯	11.7	3.0	7.1	-	3/4	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り
67	SK02	土器群	杯	12.3	3.2	7.35	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
68	SK02	土器群	杯	12.1	3.1	7.25	-	9/10	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/4灰青褐	底部へり切り、板状堆積、 粘土埋合組
69	SK02	土器群	杯	10.8	3.3	8.5	-	9/10	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/4灰	底部へり切り
70	SK02	土器群	杯	11.5	3.05	7.3	-	9/10	普通	灰、φ0.5mm以下の黄色粘土、 等含む	2.5YR7/4灰青褐	底部へり切り、灯明痕
71	SK02	土器群	杯	11.5	2.8	7.1	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の黄色粘土、 等含む	10YR8/2灰黄	底部へり切り、板状堆積
72	SK02	土器群	杯	11.7	2.9	7.4	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
73	SK02	土器群	杯	11.25	3.2	7.7	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
74	SK02	土器群	杯	11.55	2.8	7.1	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の黄色粘土、 等含む	2.5YR7/4灰青褐	底部へり切り、板状堆積
75	SK02	土器群	杯	11.3	3.2	7.4	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、赤 色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
76	SK02	土器群	杯	11.0	2.8	8.7	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の黄色粘土、 等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、板状堆積
77	SK02	土器群	甌	18.15	5.6	9.0	-	2/3	普通	灰、φ0.5mm以下の長石粘土、 等含む	2.5YR7/3灰白、 10YR8/2灰青褐	底部へり切り、外面下平腹面
78	SK02	土器群	甌	15.7	6.2	8.2	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5YR7/3灰白	底部へり切り、粘土埋合組
79	SK02	土器群	甌	15.0	5.8	8.0	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石粘土、 等含む	2.5YR7/4灰青褐	底部糸切り、粘土埋合組
80	SK02	遺差器	甌	-	(3.7)	8.1	(12.9)	底部1/2	普通	灰、φ2.0mm大の長石粘土	N7/灰白	底部糸切り
81	SK02	遺差器	甌	-	(2.7)	(7.0)	(11.5)	底部1/3	普通	灰、φ1.5mm大の長石粘土等 含む	2.5YR7/3灰白、 SYR7/3に近い赤系	底部糸切り、内面側面-外周邊に 壓伏痕
82	SK02	遺差器	甌	-	-	-	-	-	普通	灰、φ1mm大の長石粘土	N7/灰白	
83	SK04	土器群	杯	10.4	2.8	6.65	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5Y7/2灰白	底部へり切り、内外面ねじれ痕
84	SK04	土器群	杯	11.0	2.8	7.9	-	1/1	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、黒 色、赤鉄色等含む	2.5Y7/2灰白	底部へり切り、内面縫隙引明痕
85	SK04	土器群	瓶	-	(3.1)	7.3	(10.35)	底部1/1	甘	灰、φ2mm以下の長石、赤色 等含む	10YR7/1灰白	底部糸切り
86	SK04	土器群	杯	(14.7)	3.5	(8.9)	-	1/4	良好	灰、φ1mm以下の長石粘土、赤 色等含む	10YR8/2淡黄褐	底部へり切り
87	SP193	土器群	羽皿	(21.0)	(6.1)	-	(37.4)	口縁1/8	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、赤 色等含む	10YR7/3に近い黄褐	縫合せ付け、縫隙部剥落痕
88	SK08	土器群	甌	(10.4)	1.8	(7.0)	-	1/3	普通	灰、φ0.5mm以下の長石、赤 色等含む	2.5Y7/2灰白	底部へり切り、外周スヌイ
89	SK08	土器群	甌	10.1	2.05	7.8	-	1/1	普通	灰、φ1mm大の長石、褐色等 含む	2.5Y7/2灰白	底部へり切り
90	SK08	遺差器	甌	15.8	5.5	8.8	-	7/8	甘	灰、φ2mm以下の長石、赤色 等含む	N7/灰白	底部糸切り、底部状況痕
91	SK08	遺差器	甌	(14.0)	5.8	(5.4)	-	1/3	普通	灰、φ1mm以下の長石粘土等 含む	10YR8/1灰白	底部糸切り、底部状況痕
92	SK08	遺差器	甌	-	(3.2)	-	-	口縁1/8	普通	灰、φ1mm大の赤色粘土等含 む	10YR8/1灰白	回転ナデ

遺物観察表

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	最大径	残存	焼成	胎土	色調	特記事項
93	SK08	須恵器	瓶	(15.7)	5.7	(5.2)	-	1/2	良	灰、 $\phi 2mm$ 以下の長石、黒色 粒子等含む	NB/灰白	底面あつり、内外面茎葉模様
94	SK08	須恵器	瓶	(13.4)	3.6	-	-	口縁1/6	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、黒色粒 子等含む	NB/灰白	外表面あつね燒造、外面部斜付帶
95	SK08	須恵器	瓶	(17.0)	2.8	-	-	口縁2/3	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、赤色 粒子等、7mm大鉢合付	7.5YR8/1灰白、 7.5YR8/4浅黄緑	回転ナデ
96	SK08	鉢製品	灯	最大径8.35	最大幅2.35	-	-	1/1	良	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の石英等含 む	優	優
97	SK03	粗陶器	瓶	-	(3.3)	-	-	口縁1/10	普通	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の石英等含 む	10Y5/2オリーブ灰(生 地)NB/灰	輪線絵、縦周
98	SK03	須恵器	壺	-	(4.3)	-	(18.8)	体部1/8	普通	灰、 $\phi 2mm$ 以下の長石、黒色 粒子等含む	NB/灰白	外面部輪絵でケズり後ナデ、萬葉美器
99	SK14	土師器	瓶	-	(3.7)	6.0	(9.7)	底面1/1	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の赤色粒子含 む	7YR8/1灰白	底面斜引付
100	SK14	須恵器	瓶	(12.8)	(3.7)	-	-	口縁1/4	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、黒色 粒子等含む	N7/灰白	外表面あつね燒造
101	SK14	土師器	羽釜	(21.4)	(5.7)	-	(28.0)	口縁1/4	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、赤色粒 子等含む	10YR7/3にぶい黃青	輪絵引け付、外面部ナデ
102	SK11	土師器	壺	10.65	2.79	7.0	-	2/3	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、黒色粒 子等含む	2.5YR8/1青灰、 7.5YR8/3清黄緑	底部へラ切り
103	SK11	土師器	杯	(14.3)	3.4	(6.2)	-	1/2	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、黒 色粒子等含む	2.5YR8/1灰白	底部へラ切り
104	SK11	土師器	杯	(13.0)	(3.3)	-	-	口縁1/4	良好	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、石 英、粒子等含む	10YR8/1橘紅	外表面斜引付ナデ
105	SK11	土師器	瓶	-	(2.1)	6.0	(8.3)	底面1/1	良好	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	7.5YR8/2浅黄緑、 10YR8/2灰白	底面斜引付
106	SK11	須恵器	壺	-	(3.3)	-	-	体部1/20	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、石 英等含む	外表面タキ	
107	SP62	瓦	瓦	(15.0)	(8.5)	(22.2)	-	1/10	良	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、石 英、1cm大鉢合付	N7/灰白	瓦有り、凸面磨擦跡付基部、両面 継ぎ方
108	SP63	土師器	瓶	(12.4)	4.2	(6.2)	-	1/2	普通	灰、 $\phi 2mm$ 以下の長石、石 英等含む	7.5YR7/4にぶい黒、 10YR8/2浅黄緑	底面斜引付
109	SP63	須恵器	瓶	(15.4)	5.5	(8.7)	-	1/2	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、灰 色粒子等含む	SPB6/1青灰	底部へラ切り
110	SK15	土師器	壺	9.7	1.55	7.45	9.7	2/3	普通	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の長石、赤 色粒子等含む	2.5YR8/9	底部へラ切り、外表面黒斑
111	SK15	土師器	壺	9.6	1.7	6.95	-	1/1	普通	灰、 $\phi 2.5mm$ 以上の長石等含 む	7.5YR8/4青黄、 2.5YR8/1青灰	底部へラ切り
112	SK15	土師器	壺	10.0	2.6	5.75	-	4/5	普通	灰、 $\phi 1.5mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	2.5YR8/1青灰、 5YR7/6	底部へラ切り
113	SK15	土師器	壺	9.65	2.4	5.45	-	9/10	良好	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、黒色 粒子等含む	10YR8/2灰白	底部へラ切り、外表面スリット付
114	SK15	土師器	壺	9.6	2.1	-	-	4/5	良好	灰、 $\phi 1.0mm$ 以下の長石、石 英、赤色粒子等含む	5YR8/4にぶい黒	底部へラ切り
115	SK15	土師器	壺	9.3	1.5	6.8	-	1/1	普通	灰、 $\phi 5mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	10YR8/4青灰、 5YR8/6	底部へラ切り、内面黒斑
116	SK15	土師器	壺	9.8	2.2	6.5	-	9/10	普通	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の長石、赤 色粒子等含む	2.5YR8/1灰白	底部へラ切り
117	SK15	土師器	壺	-	(0.8)	7.2	(8.5)	底面1/1	良好	灰、 $\phi 2.0mm$ 以下の長石等含 む	5YR7/6	底部へラ切り
118	SK15	須恵器	瓶	15.1	5.5	5.8	-	4/5	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、灰色 粒子等含む	N8/灰	底部斜引付、外面部通縫
119	SK15	須恵器	瓶	(16.2)	(4.6)	-	-	口縁1/4	良好	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の長石等含 む	2.5YR8/1灰白	回転ナデ、内面使用により焼 痕
120	SK15	須恵器	瓶	(13.4)	4.9	(3.4)	-	1/3	普通	灰、 $\phi 0.5mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	5YR8/1灰白	底部斜引付
121	SK15	土師器	壺	(13.2)	(3.6)	-	(14.0)	口縁1/6	良好	灰、 $\phi 1.0mm$ 以下の長石等含 む	7.5YR7/3にぶい黒	模様ナデ、外面部スリット付
122	SP54	須恵器	瓶	-	(4.6)	(8.0)	(13.9)	底面1/2	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石等含 む	N7/灰白、N8/灰	底部斜引付、体部波状の指
123	SP54	須恵器	壺	-	(2.3)	(3.4)	(14.4)	底面1/5	普通	灰、 $\phi 2mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	10YR8/3浅黄緑	底部へラ切り
124	SP129	土師器	壺	(16.6)	(6.2)	-	(19.8)	口縁1/8	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石等含 む	7.5YR7/3にぶい黒	指ササ、外面部黒斑
125	SP150	土師器	杯	(13.2)	2.9	(7.5)	-	口縁1/4	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、石 英等含む	2.5YR8/1灰白	底部へラ切り
126	SP184	須恵器	瓶	(14.2)	(3.5)	-	-	口縁1/6	良好	灰、 $\phi 2.0mm$ 以下の長石、石 英等含む	N7/灰白	回転ナデ
127	SP166	墓色土器	瓶	(14.2)	5.5	(6.1)	-	1/4	良好	灰、 $\phi 1.0mm$ 以下の長石、石 英等含む	7.5YR7/1灰	内外面化
128	SP166	土師器	羽釜	-	(5.0)	-	-	口縁1/12	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石等含 む	10YR8/3にぶい黒	輪絵引け付
129	SP166	土師器	杯	-	(2.4)	-	-	口縁1/8	普通	灰、 $\phi 3mm$ 以下の長石、石 英等含む	5YR8/1灰白	
130	SP135	墓色土器	瓶	-	(3.6)	-	-	口縁1/10	良好	灰、 $\phi 5mm$ 以下の長石、石 英等含む	N3/植灰	内外面化、口縫付状態
131	SP172	土師器	杯	(15.2)	3.7	(9.4)	-	1/2	普通	灰、 $\phi 5mm$ 以下の長石、石 英等含む	5YR8/1灰、 10YR8/1灰	底部へラ切り、内面茎葉、茎葉外周 黒
132	SP209	須恵器	壺	(15.8)	(3.5)	-	-	口縁1/4	良好	灰、 $\phi 1.0mm$ 以下の長石、石 英等含む	N7/灰白	田転ナデ
133	SP235	須恵器	瓶	-	(3.1)	(6.0)	(13.6)	底面1/2	良好	灰、 $\phi 1.5mm$ 以下の長石等含 む	N7/灰白	底部斜引付
134	SP245	須恵器	瓶	-	(2.8)	-	-	口縁1/4	普通	灰、 $\phi 5.0mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	10YR8/2灰白、 10YR8/2灰黒	底部斜引付
135	包含層	土師器	瓶	14.4	5.8	6.85	-	9/10	普通	灰、 $\phi 1.5mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	7.5YR8/4浅黄緑	底部斜引付
136	包含層	墓色土器	瓶	(16.0)	(5.6)	-	-	口縁1/4	良好	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	N3/植灰	内外面化、口縫付状態
137	包含層	須恵器	耳買壺か	-	(6.7)	-	-	体部1/10	普通	灰、 $\phi 1mm$ 以下の長石、赤色 粒子等含む	SPB6/1青灰	外面部自然、耳部半分欠損
138	包含層	金具	外付2.3	内付0.8	-	-	-	1/1	-	-	-	治平元宝、重量2.3g

遺構一覧表

遺構名	測量(㎝)		主柱脚		副柱脚		斜柱脚		南北土間		東西		食器類の計		厨衛具合計		軒高合計		その他			
	年月日	地図	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	南北	東西	不明	
SP1	22	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2	28	—	37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP3	22	18	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP4	30	—	28	1	9	1	10	—	—	—	—	—	—	—	—	2	19	—	—	—	—	
SP5	41	31	37	23	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	100	1	5	—	—	
SP6	19	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP7(15B001)	24	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP8	28	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP9	35	31	31	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	15
SP10(5B001)	52	—	38	7	26	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	8	29	—	—	—	—	1
SP11(15B001)	61	52	30	3	10	1	6	—	—	—	—	—	—	—	—	4	10	—	—	—	—	—
SP12	21	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP13	21	—	30	18	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	15	—	—	—	—	—
SP14	32	—	13	2	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	10	2	18	—	—	—
SP15	35	—	32	1	5	2	17	—	—	—	—	—	—	—	—	3	22	—	—	—	—	—
SP16	31	—	27	1	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—
SP17	22	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—
SP18	21	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP19	28	25	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP20	27	—	28	—	—	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—
SP21	38	—	27	2	15	2	5	—	—	—	—	—	—	—	—	4	20	—	—	—	—	—
SP22	34	—	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	109	—	—	—	—
SP23	—	—	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP24	16	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP25	32	—	38	5	15	2	12	—	—	—	—	—	—	—	—	2	27	2	12	—	—	—
SP26	46	—	28	8	32	3	22	—	—	—	—	—	—	—	—	8	54	—	—	—	—	—
SP27	29	25	32	4	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	25	—	—	—	—	—
SP28	26	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP29(5B001)	41	28	26	7	9	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	8	17	2	14	—	—	—
SP30(5B001)	40	33	32	0	2	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	12	—	—	—	—	—
SP31	14	12	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP32	33	—	37	—	—	1	10	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10	—	—	—	—	—
SP33(5B001)	32	—	32	7	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	55	1	5	1	28	—
SP34	22	14	0	0	9	1	4	—	—	—	—	—	—	—	—	4	13	—	—	—	—	—
SP35	61	40	28	3	5	1	10	—	—	—	—	—	—	—	—	4	15	—	—	—	—	—
SP36	40	36	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP37	28	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP38	27	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP39	20	—	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP40(5B001)	73	60	20	6	35	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	9	36	1	10	1	15	—
SP41	30	—	30	0	5	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	15	—	—	—	—	—
SP42(5B001)	39	24	29	2	24	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	2	29	—	—	—	—	—
SP43	20	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP44(5B001)	38	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP45(5B001)	38	33	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP46(5B001)	60	40	20	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—
SP47(5A001)	39	35	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP48(5A001)	9	40	5	10	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	10	1	11	—	—	—
SP49	20	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP50	34	30	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	32	1	18	—	1	16
SP51	33	—	14	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	0	2
SP52	35	—	21	5	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	16	—	—	—	—	—
SP53(5B004)	37	—	40	17	45	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	19	49	3	43	—	—	—
SP54(5B004)	44	—	32	0	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	200	1	6	—	1	(1)
SP55(5B004)	44	—	32	0	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	21	—	—	—	—	—
SP56(5B004)	53	—	28	3	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	17	—	—	—	—	—
SP57(5B004)	68	44	36	3	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	12	—	—	—	—	—
SP58(5A002)	60	56	28	0	25	2	11	—	—	—	—	—	—	—	—	8	36	2	15	—	—	—
SP59(5A002)	23	—	28	8	9	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	8	12	—	—	—	—	—
SP60(5A002)	22	—	32	7	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	33	1	5	—	—	—
SP61(5A002)	40	24	28	20	30	4	31	—	—	—	—	—	—	—	—	30	32	1	17	—	—	2
SP62	27	—	21	5	50	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	7	54	1	17	—	25	—
SP63(5B004)	60	49	30	8	67	2	58	—	—	—	—	—	—	—	—	11	123	—	—	—	—	—
SP64	54	44	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP65	20	—	24	3	5	3	18	—	—	—	—	—	—	—	—	6	23	—	—	—	—	—
SP66	30	25	26	2	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	1	5	—	—	—
SP67	4	31	27	0	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	10	—	29	—	—	—
SP68(5B002)	40	—	30	24	148	2	18	—	—	—	—	—	—	—	—	26	161	1	5	1	11	1(5)
SP69(5B002)	40	—	30	29	121	3	7	—	—	1	5	—	—	—	—	30	133	0	13	—	1	10
SP70(5B002)	60	55	98	1	21	4	89	—	—	—	—	—	—	—	—	5	110	—	—	—	—	—
SP71(5B002)	71	34	24	—	—	2	7	—	—	—	—	—	—	—	—	2	7	—	—	—	—	—
SP72(5B002)	37	—	31	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP73(5B002)	68	44	25	8	12	1	5	—	—	—	—	—	—	—	—	3	15	1	43	—	—	—
SP74(5B002)	44	—	44	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	1
SP75(5B002)	44	—	30	3	6	3	29	—	—	—	—	—	—	—	—	8	31	—	—	—	—	1
SP76(5B002)	68	43	38	—	—	1	12	—	—	—	—	—	—	—	—	1	12	—	—	—	—	—
SP77	63	40	30																			

## 遺構一覧表

遺構名	深度(㎝)	土性割合		底質割合		物理的性質		熱的工場		瓦礫		食害虫の計		隠蔽害虫の計		防衛害虫の計		その他			
		有機質(%)	無機質(%)	不明																	
SP106	30	27	26	8	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP107	25	22	23	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP108	15	—	8	1	5	—	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—		
SP109	27	—	21	2	4	1	5	—	—	—	—	—	—	3	9	—	—	1	10		
SP110	30	36	28	4	25	1	6	—	—	—	—	—	—	6	30	—	—	—	—		
SP111	23	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP112	33	—	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP113	20	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	80	—	—	—		
SP114	20	—	18	1	5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	1	6	—	—		
SP115	80	60	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP116(SA12)	57	38	5	4	9	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP117	44	50	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP118(SA12)	80	28	24	3	84	3	39	—	—	—	—	—	—	8	84	2	15	—	—		
SP119	30	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP120	40	—	15	1	3	—	—	—	—	—	—	—	1	3	—	—	—	—	—		
SP121	26	—	18	2	15	—	—	—	—	—	—	—	3	15	—	—	—	—	—		
SP122	47	38	40	4	18	1	5	—	—	—	—	—	—	5	21	1	40	—	—		
SP123(SB02)	24	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10	
SP124(SB02)	28	—	20	2	2	1	1	—	—	—	—	—	—	3	3	1	10	—	—		
SP125(SB02)	54	40	44	5	10	1	2	—	—	—	—	—	—	6	12	—	—	—	—		
SP116	31	28	20	0	0	1	11	—	—	—	—	—	—	1	11	—	—	—	—		
SP127	52	36	38	1	5	2	3	—	—	—	—	—	—	3	6	1	8	—	1	10	
SP128	7	68	49	0	107	1	20	—	—	—	—	—	—	—	12	11	—	—	—		
SP129	22	—	30	2	24	2	19	—	—	—	—	—	—	10	39	—	—	—	1	5	
SP120(SB02)	32	—	32	—	—	1	8	—	—	—	—	—	—	1	6	—	—	—	—	—	
SP121(SB02)	40	28	40	2	6	1	2	—	—	—	—	—	—	3	8	2	25	—	—	—	
SP122(SB02)	35	—	40	4	21	2	8	—	—	—	—	—	—	7	37	1	40	—	—	—	
SP123(SB02)	42	34	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	20	—	—	—	—	
SP124(SB02)	37	33	38	2	15	2	14	—	—	—	—	—	—	5	17	1	6	—	—	—	
SP125	46	34	36	0	6	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP126	24	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP127	30	—	33	4	13	2	10	—	—	—	—	—	—	6	23	—	—	—	—	—	
SP128	38	30	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	80	—	—	
SP129	24	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	14	—	—	—	
SP130	39	—	27	2	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	60	—	—	
SP131	23	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP132	38	25	22	1	2	2	12	—	—	—	—	—	—	3	14	—	—	—	—	—	
SP133	40	27	34	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	—	—	—	—	—	
SP134	46	41	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10	
SP135	34	—	28	5	10	1	15	—	—	—	—	—	—	7	31	1	10	—	—	—	
SP136(SA03)	44	—	36	1	2	1	10	—	—	—	—	—	—	2	12	—	—	—	—	—	
SP137	49	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP138(SA03)	39	—	24	4	12	—	—	—	—	—	—	—	—	4	12	0	22	—	—	—	
SP139	33	—	24	—	—	2	5	—	—	—	—	—	—	2	5	—	—	—	1	5	
SP140	62	50	28	5	6	2	8	—	—	—	—	—	—	7	16	1	18	—	—	—	
SP141	38	35	42	4	16	1	4	—	—	—	—	—	—	5	20	—	1	33	—	—	
SP142	32	—	30	3	9	—	—	—	—	—	—	—	—	3	9	2	2	—	—	—	
SP143	37	20	35	0	2	2	7	—	—	—	—	—	—	13	30	4	40	1	10	—	
SP144	28	—	23	2	5	—	—	—	—	—	—	—	—	2	5	—	—	—	4	5	
SP145	30	—	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP146	20	—	23	6	15	2	5	—	—	—	—	—	—	6	20	—	—	—	—	—	
SP147	50	31	25	3	15	1	5	—	—	—	—	—	—	4	20	1	5	—	—	—	
SP148	35	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP149	39	—	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP150	37	—	17	5	73	2	15	—	—	—	—	—	—	5	88	1	20	—	—	—	
SP151	21	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP152	24	—	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP153	42	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP154	37	—	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP155	20	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP156	25	—	30	4	5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—	
SP157	19	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	20	—	—	—	1	10
SP158	37	33	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP159	41	—	36	3	14	3	14	—	—	—	—	—	—	6	28	1	80	—	—	—	
SP160	53	—	41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP161	21	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP162	28	34	26	2	25	1	29	—	—	—	—	—	—	3	60	1	9	—	—	—	
SP163	38	—	37	8	91	2	19	—	—	—	—	—	—	10	101	—	—	—	—	—	
SP164	30	30	29	1	2	1	2	—	—	—	—	—	—	2	4	1	6	—	—	—	
SP165	60	50	37	7	34	3	72	—	—	—	—	—	—	11	140	4	75	—	—	—	
SP166	44	30	26	3	10	3	10	—	—	—	—	—	—	3	10	1	15	—	—	—	
SP167	45	34	37	3	4	3	15	—	—	—	—	—	—	8	19	—	—	—	—	—	
SP168	35	31	26	25	96	2	39	—	—	—	—	—	—	27	139	1	18	—	—	—	
SP169	32	—	30	10	92	1	5	—	—	—	—	—	—	11	9	9	33	—	—	—	
SP170	39	30	34	2	6	1	5	—	—	—	—	—	—	12	34	2	23	—	—	—	
SP171	35	30	24	2	12	1	5	—	—	—	—	—	—	12	34	2	23	—	—	—	
SP172	28	25	24	0	12	1	5	—	—	—	—	—	—	2	17	1	18	—	—	—	
SP173	48	46	48	2	17	—	—	—	—	—	—	—	—	2	17	1	18	—	—	—	
SP174	27	—	28	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	2	4	1	32	—	—	—	
SP175	25	—	29	1	20	—	—	—	—	—	—	—	—	1	20	1	10	—	—	—	
SP176	28	—	24	2	15	3	12	—	—	—	—	—	—	5	27	—	—	—	—	—	
SP177	44	40	32	3	25	3	15	—	—	—	—	—	—	8	40	—	—	—	—	—	
SP178	36	34	44	4	10	1	17	—	—	—	—	—	—	8	27	2	197	—	—	—	

## 遺構一覧表

遺構名	位置(点)	土面標		底面標		輪郭標		輪廓上標		瓦標		食器類の計		陶器類の計		骨器類の計		その他	
		高さ(mm)	幅( mm)	深さ( mm)	高さ( mm)	幅( mm)	高さ( mm)	深さ( mm)	幅( mm)	高さ( mm)	幅( mm)								
SP1/192	28	—	35	2	2	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	
SP1/193	30	27	41	15	26	—	—	—	—	—	—	15	26	2	174	—	—	—	
SP1/194	15	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP1/195(SB04)	79	63	28	32	144	9	178	—	—	—	—	41	323	2	80	1	5	—	
SP1/196	17	—	30	29	0	0	1	6	—	—	—	1	6	—	—	—	—	—	
SP1/197	20	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP1/198	38	—	23	1	9	—	—	—	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—	
SP1/199	30	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/200(SB02)	56	—	36	7	15	—	—	—	—	—	—	7	15	—	—	1	32	—	
SP2/201	33	24	24	3	12	3	12	—	—	—	—	8	24	1	15	—	—	1	
SP2/202	30	—	25	—	—	1	2	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	
SP2/203	27	30	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
SP2/204(SA03)	83	55	32	8	50	3	20	—	—	1	15	—	13	85	1	58	—	—	
SP2/205	29	—	39	5	25	—	—	—	—	—	—	5	25	—	—	—	—	—	
SP2/206	83	36	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/207(SB02)	60	32	4	48	1	4	—	—	—	—	—	5	53	4	288	—	—	—	
SP2/208	27	—	33	4	39	2	22	—	—	—	—	4	43	—	—	—	—	—	
SP2/209	27	—	17	—	—	1	10	—	—	—	—	1	10	—	—	—	—	—	
SP2/210	32	27	29	2	16	1	9	—	—	—	—	3	25	—	—	—	—	—	
SP2/211	44	—	30	—	—	2	5	—	—	—	—	2	5	1	10	—	—	1	
SP2/212(SA03)	42	—	38	10	31	1	9	—	—	—	—	11	80	1	7	—	—	—	
SP2/213	30	—	33	—	—	4	38	—	—	—	—	4	38	3	80	—	(1主)	8	
SP2/214	40	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/215	53	—	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/216(SA03)	58	44	40	3	29	1	5	—	—	—	—	4	25	—	—	—	—	—	
SP2/217(SB04)	40	36	12	—	—	1	14	—	—	—	—	1	14	—	—	—	—	—	
SP2/218	35	27	35	8	38	8	12	—	—	—	—	11	46	2	80	—	—	—	
SP2/219	30	20	27	2	12	—	—	—	—	—	—	2	12	—	—	—	—	—	
SP2/220	27	27	27	11	37	10	49	—	—	—	—	21	86	2	31	—	—	1	
SP2/221(SB04)	58	36	44	8	0	2	0	—	—	—	—	4	14	—	—	—	—	—	
SP2/222	27	23	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/223	33	20	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/224	40	29	23	1	5	—	—	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—	
SP2/225	18	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	
SP2/226(SB01)	24	—	20	7	130	—	—	—	—	—	—	7	130	—	—	—	—	—	
SP2/227	40	—	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/228	24	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/229	20	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/230	25	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/231	44	40	37	5	15	3	16	—	—	—	—	8	31	3	40	—	(1主)	12	
SP2/232(SB03)	40	—	20	5	10	2	1	—	—	—	—	9	11	—	—	—	—	2	
SP2/233	2	—	23	2	9	—	—	—	—	—	—	—	14	—	—	1	10	—	
SP2/234(SB02)	26	—	32	5	19	1	5	—	—	—	—	8	24	1	82	1	8	—	
SP2/235	28	—	35	2	5	7	75	—	—	—	—	9	80	3	31	—	—	—	
SP2/236(SB02)	24	—	40	8	38	1	1	—	—	—	—	9	39	—	—	—	—	—	
SP2/237(SB01)	48	40	40	0	5	—	—	—	—	—	—	3	5	—	—	—	—	—	
SP2/238	40	25	32	3	19	—	—	—	—	—	—	3	19	—	—	—	—	—	
SP2/239(SA02)	25	—	26	8	9	8	85	—	—	—	—	13	1	1	85	—	—	—	
SP2/240	20	—	29	8	20	1	2	—	—	—	—	7	22	—	—	—	—	—	
SP2/241(SA03)	20	—	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/242	22	—	40	8	39	—	—	—	—	—	—	6	39	—	—	—	—	—	
SP2/243	31	24	21	2	5	—	—	—	—	—	—	2	5	—	—	—	—	—	
SP2/244(SA01)	37	26	24	2	11	2	5	—	—	—	—	4	16	—	—	1	29	—	
SP2/245	18	—	3	2	10	—	—	—	—	—	—	2	10	—	—	—	—	—	
SP2/246	55	—	45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/247	24	—	8	1	10	1	25	—	—	—	—	2	35	—	—	—	—	—	
SP2/248	20	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/249	20	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/250	27	—	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2/251	25	—	29	5	15	—	—	—	—	—	—	1	15	—	—	—	—	—	
SP2/252	20	—	29	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5	1	16	—	—	—	
SP2/253	22	—	24	3	10	—	—	—	—	—	—	3	10	—	—	—	—	—	
SP2/254	18	—	30	1	2	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	
SP2/255	20	—	26	0	15	—	—	—	—	—	—	3	15	—	—	—	—	—	
SP2/256	25	—	15	2	6	—	—	—	—	—	—	2	6	1	105	—	—	—	
SP2/257	29	—	20	0	6	2	6	—	—	—	—	4	11	1	5	—	—	—	
SP2/258	20	—	18	—	—	—	—	—	—	—	—	3	11	—	—	—	—	—	
SP2/259	38	26	35	1	11	—	—	—	—	—	—	1	11	—	—	—	—	—	
SP2/260	20	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SK01	700	30	5	12	40	6	22	—	—	—	—	16	64	2	10	—	(1主)	10	
SK02	660	70	5	6	19	1	1	—	—	—	—	7	43	—	—	—	—	—	
SK03	610	31	10	10	10	1	10	—	—	—	—	2	10	—	—	—	—	—	
SK04	1140	98	5	—	—	1	5	1	5	—	—	2	10	1	10	—	—	—	
SK05	80	55	21	2	4	1	9	—	—	—	—	3	9	5	70	—	—	1	
SK06	127	105	27	22	136	70	41	—	—	—	—	137	3149	3	59	2	694 (2種)	10	
SK07	102	67	20	17	88	18	59	1	5	—	—	36	152	3	20	1	42	—	
SK08	128	123	5	32	450	5	19	—	1	4	—	36	400	2	10	—	—	1	
SK09	174	123	5	17	10	1	10	—	—	—	—	7	63	2	10	—	—	1	
SK10	126	46	10	185	342	18	542	—	—	—	—	3	5	16	88	10	95	—	
SK11	130	54	32	24	82	8	35	—	—	—	—	30	97	8	298	—	—	8	
SK12	178	94	29	472	2240	67	308	—	—	—	—	552	2601	41	320	7	147	1	
SK13	14	—	26	8	56	—	—	—	—	—	—	8	40	—	—	—	—	—	
SK14	255	121	27	224	136	70	41	—	—	—	—	281	1730	31	44	8	532 (1種)	10	
SK15	75	10	10	0	5	2	50	—	—	—	—	4	5	2	57	—	—	11	
SK16	75	76	30	6	34	7	63	—	—	—	—	1	48	12	143	5	180	—	
SK17	148	92	20	72	867	23	452	—	—	—	—	34	1119	17	258	—	—	39	
SK18	330	58	12	5	24	5	62	—	—	—	—	10	66	2	20	—	—	—	
SK19	103	15	19	3	8	2	7	—	—	—	—	5	15	1	5	—	—	1	
SK20	98	93	38	58	88	8													



1 調査区より西方を望む（東から）

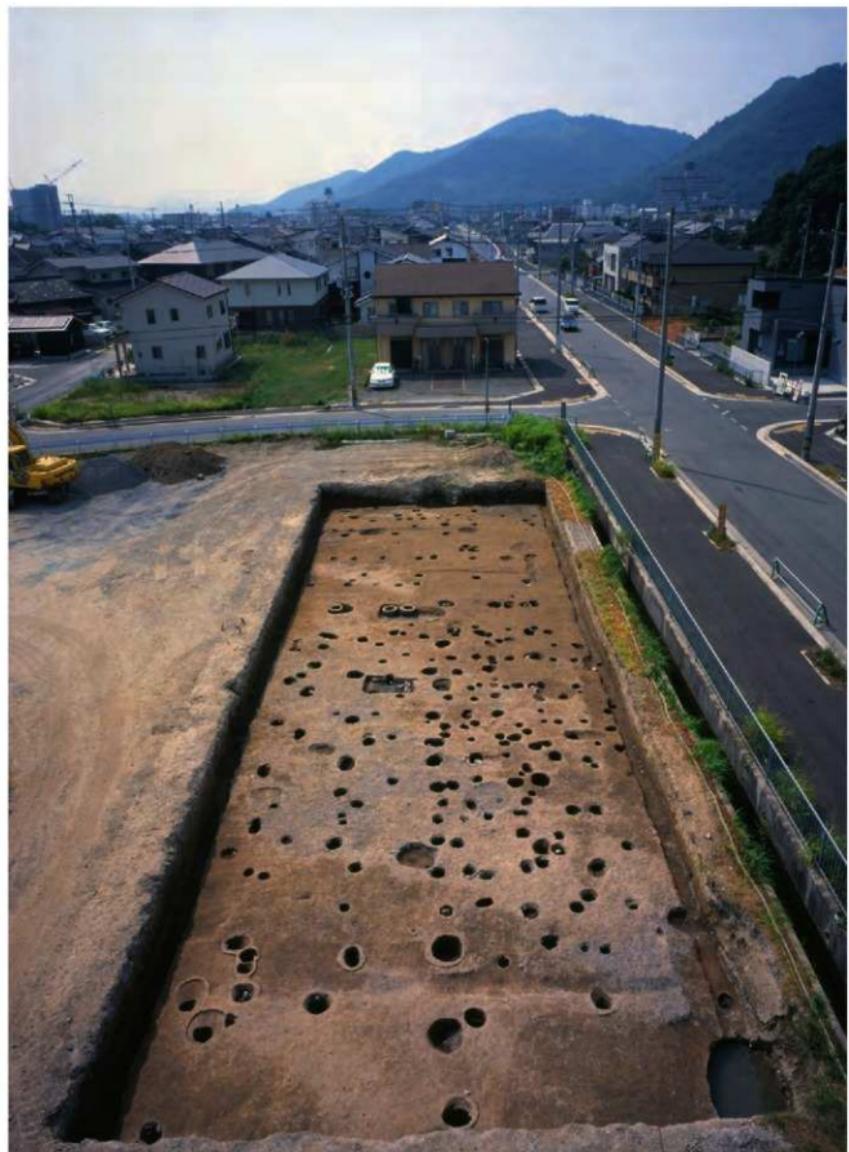


2 調査区より南方を望む（北から）

写真図版 2



1 調査区全景 遺構検出（東から）



1 調査区全景 (東から)

写真図版 4



1 調査区オルソ写真



2 調査区北壁・断ち割り断面（南東から）



写真1 SB01（北から）



写真2 SB02（北から）



写真3 SB03（北から）



写真4 SB04（北から）



写真5 SK02西半（北西から）



写真6 SK02東半（北から）

写真図版 6



写真1 ST01全景（南から）



写真2 ST01内石組み（南東から）



写真3 ST01断面（上：南東から、下：北西から）



写真1 SK03断面（南から）



写真2 SK04遺物出土状況（南から）



写真3 SK08断面（南東から）



写真4 SK08遺物出土状況（西から）



写真5 SK11全景（北から）



写真6 SK11遺物出土状況（東から）

写真図版 8



写真1 SK14遺物出土状況（南東から）



写真2 SK18断面（南から）



写真3 SK15断面（南から）



写真4 SK15遺物出土状況（南東から）



写真5 埋壙断面（南から）



写真6 埋壙内状況（上から）



写真1 SD01 (北から)



写真2 SD02 (南から)



写真3 SD03 (北から)



写真4 SD04 (北から)



写真5 SD04断面 (南から)



写真6 SX05断面 (南から)

写真図版 10



写真1 SP54遺物出土状況（西から）



写真2 SP82遺物出土状況（南から）



写真3 SP118遺物出土状況（南から）



写真4 SP128遺物出土状況（南から）



写真5 SP150遺物出土状況（南から）



写真6 SP166遺物出土状況（南から）



写真7 SP207遺物出土状況（南から）



写真8 SP239遺物出土状況（南から）



埋甕



写真図版 12



ST01





写真図版 14



102 103 SK11 13 SP82

## 報告書抄録

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第90集  
**村東遺跡**  
—英賀保駅北第二公園雨水貯留施設建設に伴う発掘調査報告書—

令和2年（2020年）年3月31日発行

編 集 姫路市埋蔵文化財センター  
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414 番地 1  
TEL (079) 252-3950

発 行 姫路市教育委員会  
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地

印刷・製本 内海印刷株式会社  
〒671-0222 兵庫県姫路市白国 5-8-4

